

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	8	人				
うち	社会人院生	2	人	留学生	1	人
研究生	0	人				
学部生	0	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	関西社会学会	理事	2007.5	2010.4
学術団体	日本学術会議	連携会員	2006.5	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	室員(副室長)	2004.4	2007.3
運営会議	委員	2004.4	
図書室	室長	2003.4	2007.1
人間科学研究倫理委員会	委員長	2006.1	2007.1

担当授業科目
社会学説史
社会学説史特講
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会学理論特別研究Ⅰ
社会学理論特別研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	「グローバル化と社会学の 未来」	厚東洋輔	2007.11	友枝敏雄・厚東洋輔 編 『社会学のアー ーナへ』 東信堂 pp.291-315.
著書	「后現代化与全球化」	厚東洋輔 著 朱偉玉 訳	2007.12	上海社会科学院編 『社会科学』 pp. 56-63
講演録	「グローバル化と社会概念 の変容」	厚東洋輔述	2006.4	第73回トランスナ ショナルリティ研究セ ミナー講演録をホー ムページ掲載用に編 輯

先端人間科学 前迫 孝憲

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	1
博士後期課程	11	人			
うち	社会人院生	6	人	留学生	1
研究生					
学部生	8	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育システム情報学会	理事	平成 15 年 10 月	平成 21 年 予定
協会	日本教育工学協会	理事	平成 14 年 4 月	平成 20 年 予定
学会	日本科学教育学会	評議員	平成 10 年 7 月	平成 20 年 予定
学会	日本教育工学会	評議員	平成 17 年 6 月	平成 21 年 予定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育情報化ワーキング	委員	平成 18 年 4 月	
情報ネットワークシステム委員会	委員	平成 18 年 4 月	平成 22 年 3 月
サイバーメディアセンター運営委員会	委員	平成 12 年 4 月	
サイバーメディアセンター広報委員会	委員	平成 12 年 4 月	
APRU (環太平洋大学協会) / AEARU (東アジア 研究型大学協会) 学内ワーキング	委員	平成 19 年 4 月	

担当授業科目
コミュニケーションメディア特講 II
コミュニケーションメディア特定研究 I
コミュニケーションメディア特定研究 II
コミュニケーションメディア特定演習 I
コミュニケーションメディア特定演習 II
コミュニケーションメディア特別研究 I
コミュニケーションメディア特別研究 II
コミュニケーションメディア特別演習 I
コミュニケーションメディア特別演習 II
教育工学特定研究 I
教育工学特定研究 II
教育工学特定演習 I
教育工学特定演習 II
教育工学特別研究 I
教育工学特別研究 II
教育工学特別演習 I
教育工学特別演習 II
教育工学 II
教育工学演習 I
教育工学演習 II
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

**[5]2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Second Language Teaching in Multi-cultural Settings: Using HyperMirror with Reflective Images	Keiko Tsujioka・Takanori Maesako・Osamu Morikawa	2007. 3. 26	Proceedings of Society for Information Technology and Teacher Education International Conference (SITE) 2007, San Antonio, Texas, USA, AACE、512-517
学術論文	Collaborative Second Language Learning in Joint Attention with Three Combined Images from Distant Places	Keiko Tsujioka・Takanori Maesako・Osamu Morikawa	2007. 6. 25	World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2007, Vancouver, Canada, AACE、1947-1953
学術論文	児童の川の見方に基づいた河川学習用デジタルコンテンツの開発と評価	吉富友恭・今井亜湖・埴岡靖司・前迫孝憲	2008. 3.	日本教育工学会論文誌 31(Suppl.)、165-168

学術論文	NIRS evaluates the thinking process of Mushi-kuizan task	Hideo Eda ・ Yasufumi Kuroda ・ Naoko Okamoto ・ Takanori Maesako	2008.2.8 (Conf.date: 2008.1.19 San Jose, CA, USA)	Proceedings of SPIE (The International Society for Optical Engineering ) 、 Vol.6850、685002 (6 pages) online
大学・研究会 等論文	超鏡 (HyperMirror) を活用した第二言語学習—協調学習による異文化間コミュニケーション能力向上への取り組み	辻岡圭子・前迫孝憲・森川治	2007.1	教育システム情報学会研究報告 21(5)、9-16
大学・研究会 等論文	ディスプレイ表示における回答反応時間の測定	辻岡圭子・辻岡光宏・前迫孝憲	2007.9.22	日本教育工学会大会 論文集、227-228
大学・研究会 等論文	遠隔映像協調環境に関する一検討-日米間の実践から-	中澤明子・奥林泰一郎・Spence Zaorski・前迫孝憲	2007.9.22	日本教育工学会大会 論文集、399-400
大学・研究会 等論文	木を題材とした遠隔交流学習-日米 Tree Watch Project を事例として-	奥林泰一郎・中澤明子・Spence Zaorski・前迫孝憲	2007.9.22	日本教育工学会大会 論文集、403-404
大学・研究会 等論文	ボディメカニクス活用動作に関する教育用自己チェックシステムの試作 (第2報)	伊丹君和・安田寿彦・石橋宗篤・前迫孝憲	2007.9.22	日本教育工学会大会 論文集、465-466
大学・研究会 等論文	Development of Nutrition Education Curriculum for International Exchange Learning between Japanese and Thai School Children by using HyperMirror, a New Videoconferencing System	Yuko S. Yoshimoto ・ Ako Imai ・ Shimako Muto ・ Junko Fujikura ・ Hiromi Ikeda ・ Takanori Maesako ・ Akiko Nakazawa ・ Taiichiro Okubayashi ・ Osamu Morikawa ・ Surasak Boonyaritichaij	2007.11.25	The 39th Conference of Asia-Pacific Academic Consortium for Public Health、 176
大学・研究会 等論文	ヒント提示の認識の差異がもたらす脳活動の特徴-小学生を対象として-	岡本尚子、黒田恭史、前迫孝憲	2008.3.1	日本教育工学会研究 報告集、JSET08(1)、 C3
大学・研究会 等論文	国際交流学習実践の準備段階におけるコミュニケーションの分析	奥林泰一郎・中澤明子・Spence Zaorski・前迫孝憲	2008.3.1	日本教育工学会研究 報告集、JSET08(1)、 99-106
大学・研究会 等論文	視覚・聴覚メディアが理解・判断に及ぼす影響	辻岡圭子・辻岡光宏・前迫孝憲	2008.3.15	教育システム情報学会研究報告 22(6)、120-129

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	16	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	地域別議員	2003.4	
学会	日本人間工学会	評議員	2007.4	
学会	関西心理学会	委員	2003.4	
学会	電子情報通信学会 安全性研究専門委員会	委員	2004.1	
学会	産業・組織心理学会	理事	2007.4	
学会	日本人間工学会関西支部	評議員	2001.1	
国・地方公共団体	国土交通省 運転士の資質向上検討委員会	委員	2005.7	
独立行政法人	労働安全衛生総合研究所	フェロー研究員	2004.4	
独立行政法人	労働安全衛生総合研究所	ITを活用した安全衛生管理手法の構築に関する委員会 委員	2006.6	
独立行政法人	製品評価技術基盤機構	事故原因技術解析ワーキンググループ 委員	2003.5	
独立行政法人	原子力安全基盤機構	人文・社会科学基盤調査研究検討会 委員	2006.6	
公益法人	労働科学研究所	協力研究員	2000.4	
公益法人	労働科学研究所	編集協力委員	2004.4	
公益法人	国土技術研究センター	建設工事事故対策検討委員会 委員	2004.7	
公益法人	関西情報・産業活性化センター	安全帯システム開発研究委員会 委員	2005.12	
公益法人	大阪科学技術センター	関西安全・安心を支える科学技術推進会議 副主査	2008.3	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価委員会	委員	2007.3	
安全衛生管理委員会	委員	2004.3	

担当授業科目
リスク人間科学特定演習Ⅰ
リスク人間科学特定演習Ⅱ
リスク人間科学特別演習Ⅰ
リスク人間科学特別演習Ⅱ
リスク人間科学特講Ⅱ
リスク人間科学特定研究Ⅰ
リスク人間科学特定研究Ⅱ
リスク人間科学特別研究Ⅰ
リスク人間科学特別研究Ⅱ
応用行動学特講Ⅱ
応用行動学特定演習Ⅰ
応用行動学特定演習Ⅱ
応用行動学特別演習Ⅰ
応用行動学特別演習Ⅱ
応用行動学特定研究Ⅰ
応用行動学特定研究Ⅱ
応用行動学特別研究Ⅰ
応用行動学特別研究Ⅱ
人間科学フィールド演習
現代社会の行動学
心理学測定
リスク心理学
応用行動学演習Ⅰ
応用行動学演習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	高所作業中のリスクを測る実験研究 / 実践的研究のすすめ(小泉潤二・ 志水宏吉編)	臼井伸之介	2007.7	有斐閣
著書	労働災害のリスクと作業安全 / 事故 と安全の心理学(三浦利章・原田悦子 編)	臼井伸之介	2007.8	東京大学出版会
学術論文	看護業務における違反事例の収集と その心理的生起要因に関する検討	安達悠子・臼井 伸之介・篠原一 光・松本友一 郎・青木喜子	2007.3	労働科学, Vol.83, No.1, 7-23.

学術論文	日常生活における注意経験と主観的メンタルワークロードの個人差	篠原一光・山田尚子・神田幸治・臼井伸之介	2007.8	人間工学, Vol.43, No.4, 201-211.
学術論文	違反行動誘発課題における課題遂行コストとリスク認知について	和田一成・臼井伸之介・篠原一光・神田幸治・中村隆宏・太刀掛俊之	2007.8	電子情報通信学会技術研究報告(安全性), Vol.107, No.204, 5-8.
学術論文	大学における事故事例の収集に関する研究(Ⅱ) - 認知的要因による分析とその検討 -	太刀掛俊之・山本仁・臼井伸之介	2007.8	電子情報通信学会技術研究報告(安全性), Vol.107, No.204, 9-12.
学術論文	操船方略の経験による違い. 日本航海学会論文集	瀧真輝・古莊雅生・藤本昌志・臼井伸之介	2007.11	日本航海学会論文集, 117号, 199-206.
大学・研究所等の報告	リスクマネジメント教育の有効性評価に関する総合的研究	臼井伸之介・篠原一光・山田尚子・神田幸治・中村隆宏・和田一成・村上幸史・太刀掛俊之	2008.3	厚生労働科学研究費補助金平成19年度総括・分担研究報告書, 1-147.
大学・研究所等の報告	リスクマネジメント教育の有効性評価に関する総合的研究	臼井伸之介・篠原一光・山田尚子・神田幸治・中村隆宏・和田一成・村上幸史・太刀掛俊之	2008.3	厚生労働科学研究費補助金平成17-19年度総合研究報告書, 1-344.
大学・研究所等の報告	看護業務におけるリスク教育プログラムの開発とその効果測定	臼井伸之介・和田一成・太刀掛俊之	2008.3	平成17-19年度科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書, 1-147.
解説・総説	ヒューマンファクターの視点からの墜落・転落災害防止	臼井伸之介	2007.8	安全と健康, Vol.8, No.8, 25-28.
国際学会抄録	Human Relations and Job Burnout among Nurses in Japan.	Matsumoto T, Usui S.	2007.7	VII th Conference of Asian Association of Social Psychology
会議報告	ヒューマンエラー・違反防止の心理学的接近	臼井伸之介	2007.4	第80回日本産業衛生学会(招待講演)
会議報告	看護業務における安全教育の有効性評価について - 経験4-6年群を対象として -	臼井伸之介	2007.9	日本応用心理学会第74回大会
会議報告	心理学者は社会的役割をどう果たすべきか - 研究の取り組みのありかたをめぐって -	臼井伸之介	2007.11	日本心理学会第70回大会ワークショップ
会議報告	予防安全の基盤はメンテナンスにあり(コメンテータ)	臼井伸之介	2007.12	産業組織心理学会第87回部門別研究会(作業部門)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	5	人			
うち 社会人院生	1	人	留学生	1	人
研究生	1	人			
学部生	9	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	アジア社会心理学会	学術雑誌 co-editor	2007	
	日本自然災害学会	評議員	2006	
	ひょうごボランティアプラザ 運営協議会(兵庫)	委員	2006	
	大阪府教育コミュニティづくり推 進協議会(大阪府)	委員	2006	
	大阪府学校教育審議会委員 (大阪府)	委員	2006	
	豊中市教育委員会(豊中市)	委員	2005	
	守口市教育委員会(守口市)	委員	2006	
	企画実行委員会(日本学生) 援機構)	委員	2006	
	関西大学人間活動理論研究セ ンター(関西大学)	客員研究員	2005	
	関西学院大学災害復興制度 研究所	客員研究員	2005	
	(特活)日本災害救援ボランテ ィアネットワーク	理事長	2007	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
部局安全衛生委員会	委員	2006.5	
防災対策委員会	委員	2006.5	
セクシャルハラスメント防止・対策委員会	委員	2006.5	

担当授業科目
ボランティア人間科学フィールドワーク演習Ⅰ・Ⅱ
ボランティア人間科学方法実習Ⅰ・Ⅱ
ボランティア人間科学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
援助行動学
ボランティアの集団力学
卒業演習
卒業研究
ボランティア人間科学演習Ⅰ・Ⅱ
ボランティア人間科学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
減災コミュニケーションⅠ・Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	地震イツモノート	渥美公秀(監修)	2007	木楽舎
著書	災害時におけるヘルスプロモーション:こころと身体のよりよい健康をめざして 第Ⅰ章1.地域防災教育のあり方 第Ⅰ章2.地域防災のあり方	渥美公秀(著) 山本保博(監) 山崎達枝(編)	2007	荘道社 pp.6-17
著書	実践的研究のすすめ—人間科学のリアリティ 5章 研究をまとめる—「バイリンガル」に	渥美公秀(著) 小泉潤二・志水宏吉(編)	2007	有斐閣 pp.71-84.
著書	いのちをまもる知恵—減災に挑む30の風景	渥美公秀(著) 花村周寛(編)	2007	特定非営利法人レスキューストックヤード pp.128-129.
著書	災害文化と災害教育 第4部第3章 文化としての災害ボランティア活動	渥美公秀(著) 岩崎信彦ほか(編)	2008	昭和堂 pp.217-237.
学術論文	Aviation with Fraternal Twin Wings over the Asian Context: Using nomothetic epietemic and narrative design paradigms in social psychology.	Atsumi,T.	2007	<i>Asian Journal of Social Psychology</i> ,10,32-40.
学術論文	台湾 921 震災後における農山村の復興—桃米生態村の事例研究	高玉潔・渥美公秀・加藤謙介・宮本匠・関 嘉寛・諏訪晃一・山口悦子	2007	自然災害科学, <b>25(4)</b> ,491-506
学術論文	Disaster volunteers and two types of interest.	Suwa,K.,Atsumi,T., & Seki, Y.	2007	<i>Selected Papers by the International Society of Third Sector Research</i> (On-line publication).
学術論文	. 阪神・淡路大震災の語り部と聞き手の対話に関する一考察—対話の綻びをめぐって	高野尚子・渥美公秀	2007	実験社会心理学研究, <b>46(2)</b> ,185-197.
紀要論文	災害ボランティアの動向:阪神・淡路大震災から中越地震を経て	渥美公秀	2007	大阪大学人間科学研究科紀要, <b>33</b> , 99-112.

紀要論文	職場適応援助者事業に関する一考察	青木千帆子・渥美公秀	2007	大阪大学人間科学研究科紀要, <b>33</b> , 113-128.
紀要論文	災害ボランティア経験者が語った「智慧」	高玉潔・渥美公秀	2007	大阪大学大学院人間科学研究科ボランティア人間科学講座紀要, <b>7</b> , 17-28.

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
都市とメディア
減災コミュニケーション入門
減災コミュニケーション理論と実践

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	ボランティアからひろがる公共空間	関嘉寛	平成20 年3月	梓出版社
学術論文	安全・安心なまちづくりに関わるローカルな知	関 嘉寛	印刷中	日本リスク研究学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	38	%
社会貢献	2	%
学内運営	50	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	9	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科教務委員会	教務委員	2006.5.1	

担当授業科目
心理学測定(学部)
基礎心理学(学部)
実験心理学演習 I(学部)
実験心理学演習 II(学部)
人間行動学実験実習 I(学部)
人間行動学実験実習 II(学部)
人間行動学実験実習 III(学部)
卒業演習
卒業研究
基礎心理学特講 II(大学院)
基礎心理学特定研究 I(大学院)
基礎心理学特定研究 II(大学院)
基礎心理学特定演習 I(大学院)
基礎心理学特定演習 II(大学院)
基礎心理学特別研究 I(大学院)
基礎心理学特別研究 II(大学院)
基礎心理学特別演習 I(大学院)
基礎心理学特別演習 II(大学院)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文(共 著)	The effect of expertise in hiking on recognition memory for mountain scenes, MEMORY, Vol.15, pp.768-775	Kawamura, Suzuki, and Morikawa	2007.10	Psychology Press

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	1	人	社会人院生	_____	人	留学生	_____	人
博士後期課程	うち	1	人	社会人院生	_____	人	留学生	1	人
研究生		0	人						
学部生		20	人						
学位申請者		0	人						

【4】2007（平成19）年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	編集委員	2005. 11	
学会	日本生理心理学会	理事	2007. 7	
学会	日本臨床神経生理学会	評議員	2003. 11	
学会	日本音楽知覚認知学会	理事	1990. 4	
学会	日本ワーキングメモリ学会	理事	2004. 2	
学会	関西心理学会	委員	1998. 4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
言語・情報講座	講座主任	2007. 4. 1.	2007. 9. 30
言語講座	講座主任	2007. 4. 1	2007. 9. 30
言語・情報講座	講座代表	2007. 10. 1	2008. 3. 31
言語講座	講座代表	2007. 10. 1	2008. 3. 31

担当授業科目
認知心理学 a
認知心理学 b
神経言語心理学 a
神経言語心理学 b
心理学演習 a
心理学演習 b
神経言語心理学演習 a
神経言語心理学演習 b
認知言語心理学 1
認知言語心理学 2
認知言語心理学特別研究 1
認知言語心理学特別研究 2

【5】2007（平成19）年度 著書・論文

分類（著書・ 学術論文等）	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	Neural bases of focusing attention in working memory: An fMRI study based on individual differences. In Osaka, N., Logie, R.H., & D' Esposito, M. (eds.) The Cognitive Neuroscience of Working Memory	Osaka, M. & Osaka, N.	2007. 9.	Oxford University Press pp. 99-117
著書	ワーキングメモリにおける注意のフォーカスと抑制の脳内表現： 「ワーキングメモリの脳内表現」 荻阪直行 編著	荻阪満里子	2008. 2.	京都大学学術出版会 pp. 77-102
専門書	ワーキングメモリと感覚・知覚 「新編、感覚、知覚心理学ハンドブック」 大山正・今井省吾・和氣典二・菊池正（編）	荻阪満里子	2007. 9	誠信書房 pp. 125-134
学術論文	Neural bases of focusing attention in working memory: An fMRI study based on group differences.	Osaka, M. Komori, M., Morishita, M. & Osaka, N.,	2007. 5	Cognitive, Affective, & Behavioral Neuroscience, 7. 130-139
学術論文	PPA & OFC correlates of beauty and ugly: An event related fMRI study.	N. Osaka, T, Ikeda I. Rentchler, & M, Osaka	2007. 9.	Perception, 36, 134-135
学術論文	ワーキングメモリ：言語理解を支える記憶とその脳内基盤	荻阪満里子	2007, 10	第二言語としての日本語の習得研究, 10, 114-121
学術論文	ワーキングメモリ	荻阪満里子	2008. 3.	こころの科学、138、47-51. 日本評論社
会議報告 会議報告	Memorizing visuo-spatial and verbal color working memory. An fMRI study.	Osaka, N., Ikeda, T. & Osaka, M.	2007. 7.	Proceedings of AIC. 2007 (Zhejiang Univ.)
会議報告	Focusing of attention: An fMRI based on group differences.	Osaka, N. & Osaka, M.	2007. 11	Program of Society for Neuroscience 2007 (San Diego, USA)
会議報告	ワーキングメモリにおける注意	荻阪満里子	2007. 9	日本心理学会第 71 回発表論文集
会議報告	言語性ワーキングメモリの訓練効果：抑制機能の観点から	木下侑里子, 荻阪満里子	2008. 3	日本ワーキングメモリ学会第 5 回抄録集
会議報告	リーディングスパンテストにおける注意制御と眼球運動	十河宏行, 佐藤貴之, 大塚結喜, 荻阪満里子, 荻阪直行	2008. 3	日本ワーキングメモリ学会第 5 回抄録集
会議報告	言語性ワーキングメモリ課題における感情情報の影響：高齢者を対象として	勝原摩耶, 大塚結喜, 荻阪満里子, 荻阪直行	2008. 3	日本ワーキングメモリ学会第 5 回抄録集
会議報告	自己を含む人物表象変もメタ的評価とその脳内神経基盤	矢追 健, 荻阪直行, 荻阪満里子	2008. 3	日本ワーキングメモリ学会第 5 回抄録集
会議報告	視覚性ワーキングメモリの情報保持に関わる神経基盤の検討：ワーキングメモリの容量の個人差からのアプローチ	源 健宏, 荻阪満里子, 荻阪直行	2008. 3	日本ワーキングメモリ学会第 5 回抄録集

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	70	%
教育	10	%
社会貢献	20	%
学内運営	0	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生		2	_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	顔の形態的特徴と魅力評価の関係 ― 幾何学的形態測定学による検討	小森政嗣・川村智	2007.5	日本認知心理学会第 5回大会論文集
学術論文	The effect of expertise in hiking on recognition memory for mountain scenes.	<u>Kawamura, S.</u> , Suzuki, S., & Morikawa, K.	2007.9	Memory
会議報告	顔の形態的特徴と女らしさ／男らしさ評 価の関係 ―Geometric Morphometrics による検討	小森政嗣・川村智	2007.9	日本心理学会第 71 回大会論文集
学術論文	Conditions for portraying photographs of the real world as dioramas.	<u>Kawamura, S.</u> , & Komori, M.	2007.10	Proceedings of International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research 2007
学術論文	Determinants of gender perception: applying geometric morphometrics to facial images.	Komori, M., <u>Kawamura, S.</u> , Ishihara, S., & Noguchi, H.	2007.10	Proceedings of International Conference on Kansei Engineering and Emotion Research 2007
学術論文	Central performance drop induced by simultaneous masking.	<u>Kawamura, S.</u>	2007.10	Proceedings of the 23rd Annual Meeting of the International Society for Psychophysics
学術論文	Explanation of facial attractiveness by principal component analysis applied for the pixel values of facial images.	<u>Kawamura, S.</u> , & Komori, M.	2008.3	Proceedings of the Second International Workshop on Kansei

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	5	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	International Association of Vision in Vehicles	Scientific Committee	1996.2	
独立行政法人	日本学術振興会	日本学術振興会学術システム研究センター研究員	2007.4	2010.3
独立行政法人	日本学術会議	日本学術会議連携会員	2006.8	2011.9
独立行政法人	新エネルギー・産業技術総合開発機構	NEDO ピアレビューアー	1998.2	
学会	関西心理学会	会長	2007.4	
学会	日本基礎心理学会	評議員	2005.6	
学会	日本人間工学会関西支部	顧問	2005.4	
学会	日本認知心理学会	常任理事、編集委員長	2004.6	
社団法人	日本心理学会	専門別代議員	2001.4	
特定非営利活動法人	モバイル学会	監査	2007.2	
財団法人	大阪科学技術センター 関西安全・安心を支える科学技術推進会議	幹事	2007.4	
独立行政法人	製品評価技術基盤機構	化学・生体障害技術解析WG委員	2007.5	
独立行政法人	交通安全環境研究所	客員研究員	2003.12	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
科学教育機器リノベーションセンター運営委員会	委員	2001.4	2008.3

担当授業科目
応用認知行動学
応用認知行動学演習 I
応用認知行動学演習 II
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
卒業演習
卒業研究
適応認知行動学特講 I
適応認知行動学特別演習 I
適応認知行動学特別演習 II
適応認知行動学特別研究 I
適応認知行動学特別研究 II
適応認知行動学特定演習 I
適応認知行動学特定演習 II
適応認知行動学特定研究 I
適応認知行動学特定研究 II

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門書	事故と安全の心理学	三浦利章・原田悦子(編著)	2007.8	東京大学出版会
専門書	感覚知覚心理学ハンドブック part2	木村貴彦・三浦利章(分担執筆)	2007.9	誠信書房
学術論文	モダリティーと空間に対する注意の加算性	上田真由子・三浦利章	2007.3	基礎心理学研究
学術論文	三次元空間における注意資源配分-判断難易度からの検討-	木村貴彦・三浦利章・土居俊一	2007.6	心理学研究
学術論文	The allocation of attention on a perpendicular visual display during reaching movements in depth	Naito,H., Miura,T., and Kimura, T.	2007.8	Journal of Human Ergology
学術論文	運転時の視覚的注意と安全性	三浦利章	2007.12	映像情報メディア学会誌
学術論文	Allocation of Attention and Effect of Practice on Persons with and without Mental Retardation	Oka, K & Miura, T.	in Press	<i>Research in Developmental Disabilities</i>
学術論文	注意制御機能における加齢変化:反応時間と感度による検討	高原美和・三浦利章・篠原一光・木村貴彦	印刷中	基礎心理学研究
Technical report	垂直方向における注意の空間特性に行為が及ぼす影響	内藤宏・三浦利章・木村貴彦	2008.1	Technical Report on Attention and Cognition
Proceedings	Coping with environment: visual attention and the traffic safety	Miura,T., Shinohara,K., and Kimura, T.	2007.11	Proceedings of international symposium on Eco Topia 2007 (ISETS07)

講演集（招待講演）	視覚的注意と処理効率・安全性	三浦利章	2007.10	平成 18 年度情報処理学会関西支部支部大会講演論文集
国際学会抄録	Effects of goal-directed movements on the relation between size of the attentional area and efficiency of visual search	Naito,H., Miura,T., and Kimura, T.	2007.8	Perception
国際学会抄録	The age-related changes on attentional control: Effects of the task-irrelevant onset and the number of stimuli	Takahara,M., Miura,T., Shinohara,K., and Kimura, T.	2007.8	Perception
国際学会抄録	Characteristic of depth attention when observer is in dark field	Xia,R., Fukushima,M., Doi, S., Kimura,T., and Miura, T.	2007.9	International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology (SICE 2007)
報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2007. 9	平成 16 年度～平成 18 年度文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究（略称：情報福祉の基礎）研究成果報告書（代表者：市川熹，成果とりまとめ：長嶋祐二）
紀要	運転行動の自己報告に基づく運転スタイルの評価	駒田悠一・木村貴彦・篠原一光・三浦利章	2008. 3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生	0	人			
学部生	2	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	大阪交通科学研究会	学会誌編集委員	2004.4	
学会	日本認知心理学会	理事・学会誌編集委員	2003.5	
学会	特定非営利法人モバイル学会	理事	2002.4	
学会	日本人間工学会関西支部	企画幹事	2001.4	
学会	ヒューマンインタフェース学会	評議員	2006	
学会	関西心理学会	常任委員	2007.11	
公益法人	特定非営利法人ウェアラブルコンピュータ研究開発機構	HMD 安全委員会委員	2004.9	
公益法人	社団法人自動車技術会	車両特性企画部会ドライバ評価手法部門委員	2004.4	
公益法人	財団法人鉄道総合技術研究所	リサーチアドバイザー	2005.7	
公益法人	社団法人大阪自動車学校協会	法定講習講師	2003.4	
公益法人	社団法人大阪府交通安全協会	安全運転管理者法定講習講師	2002.4	
公益法人	社団法人自動車技術会	論文校閲委員・車両特性企画部会ドライバ評価手法部門委員	2004.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
職員集会所「さわらび」運営委員会	委員	2005.9	

担当授業科目
応用認知行動学
心理学実験
適応認知行動学演習Ⅰ
適応認知行動学演習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
適応認知行動学特講Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅰ
適応認知行動学特定演習Ⅱ
適応認知行動学特定研究Ⅰ
適応認知行動学特定研究Ⅱ
適応認知行動学特別演習Ⅰ
適応認知行動学特別演習Ⅱ
適応認知行動学特別研究Ⅰ
適応認知行動学特別研究Ⅱ
心の世界

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(分担執筆)	事故と安全の心理学	篠原一光	2007.8	東京大学出版会
学術論文	運転行動の自己報告に基づく運転スタイルの評価	駒田悠一,木村貴彦,篠原一光,三浦利章	2008.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要,34, 189-214
学術論文	日常生活における注意経験と主観的メンタルワークロードの個人差	篠原一光,山田尚子,神田幸治,臼井伸之介	2007.8	人間工学, 43, 201-211
学術論文	複数対象の運動方向変化検出課題における注意の効果	駒田悠一,篠原一光,三浦利章	2007.8	認知心理学研究, 5, 43-52
学術論文	看護業務における違反事例の収集とその心理的生起要因に関する検討	安達悠子,臼井伸之介,篠原一光,松本友一郎,青木喜子	2007.6	労働科学, 83, 7-23
国際学会抄録	The age-related changes on attentional control: Effects of the task-irrelevant onset and the number of stimuli	Takahara,M., Miura,T., Shinohara,K., and Kimura, T.	2007.8	Perception
国際学会抄録	Coping with environment: visual attention and the traffic safety	Miura,T., Shinohara,K., and Kimura, T.	2007.11	Proceedings of international symposium on Eco Topia 2007 (ISETS07)

報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2007.9	平成16年度～平成18年度文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究(略称:情報福祉の基礎)研究成果報告書(代表者:市川薫,成果とりまとめ:長嶋祐二)
報告書	運転パフォーマンス測定のためのドライビングシミュレータの開発ー実験環境の構成と試行ー	篠原一光,中村隆宏,臼井伸之介	2007.4	交通労働災害防止のための安全衛生管理手法の高度化に関する研究(平成18年度総括・分担研究報告書)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数> (全て3名の教員共同で指導)

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	5	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
研究会	日本心理学会注意と認知研究会	運営委員	2004. 3	
学会	日本人間工学会関西支部	企画委員	2003. 4	
学会	日本人間工学会関西支部	選挙管理委員	2007	
学会	ヒューマンインタフェース学会 アクセシブル・インタフェース専門研究会	総務担当幹事・リエゾン委員	2007. 1	
学会	関西心理学会	幹事	2007.11	
学会	電子情報通信学会福祉情報 工学研究専門委員会	専門委員	2007. 5	
研究会	関西安全・安心を支える科学 技術推進会議 ヒューマンファ クター研究会	学識委員	2008. 3	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
心理学実験 (他の教員と共同)
人間行動学実験実習 I (他の教員と共同)
人間行動学実験実習 II (他の教員と共同)
人間行動学実験実習 III (他の教員と共同)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
分担執筆	「空間的注意」 感覚知覚心理学ハンドブック part2 大山正・今井省吾・和氣典二・菊池正(編)	木村貴彦・三浦利章	2007.9	誠信書房
学術論文	三次元空間における注意資源配分—判断難易度からの検討—	木村貴彦・三浦利章・土居俊一	2007.6	心理学研究
学術論文	The allocation of attention on a perpendicular visual display during reaching movements in depth.	Naito,H., Miura, T., and Kimura, T.	2007.8	Journal of Human Ergology
学術論文	注意制御機能における加齢変化:反応時間と感度による検討	高原美和・三浦利章・篠原一光・木村貴彦	印刷中 (accepted)	基礎心理学研究
Technical report	垂直方向における注意の空間特性に行為が及ぼす影響	内藤宏・三浦利章・木村貴彦	2008.1	Technical Report on Attention and Cognition
Proceedings	Coping with environment: visual attention and the traffic safety.	Miura, T., Shinohara, K., and Kimura, T.	2007.11	Proceedings of international symposium on Eco Topia 2007 (ISETS07)
国際学会抄録	Effects of goal-directed movements on the relation between size of the attentional area and efficiency of visual search.	Naito,H., Miura,T., and Kimura, T.	2007.8	Perception
国際学会抄録	The age-related changes on attentional control: Effects of the task-irrelevant onset and the number of stimuli.	Takahara,M., Miura, T., Shinohara,K., and Kimura, T.	2007.8	Perception
国際学会抄録	Characteristic of depth attention when observer is in dark field.	Xia, R., Fukushima, M., Doi, S., Kimura, T., and Miura, T.	2007.9	International Conference on Instrumentation, Control and Information Technology (SICE 2007)
報告書	加齢に伴う注意・認知機能の変化と類型化	三浦利章・篠原一光・木村貴彦・高原美和	2007.9	平成16年度～平成18年度文部科学省科学研究費補助金「特定領域研究」障害者・高齢者のコミュニケーション機能に関する基礎的研究(略称:情報福祉の基礎)研究成果報告書(代表者:市川熹, 成果とりまとめ:長嶋祐二)
紀要	運転行動の自己報告に基づく運転スタイルの評価	駒田悠一・木村貴彦・篠原一光・三浦利章	2008.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	0	人			
学部生	10	人			
学位申請者	3	人			

注)この他2回生1名については、教授2名で共同指導

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	認定心理士カリキュラム委員	2003. 11	
学会	日本社会心理学会	会長	2005. 4	2009. 3
学会	日本顔学会	理事	2007. 1	
学会	日本コミュニケーション学会	理事	2006. 6	2008.5
学会	日本応用心理学会	理事	2006. 4	
学会	日本感情心理学会	副理事長	2007. 5	
学会	日本心理学諸学会連合	副理事長	2007. 6	
学会	日本認定心理士会	理事	2007. 6	
財団法人	大学基準協会	評価委員	2006. 4	
独立行政法人	日本学術会議	連携会員(第一部)	2006. 8	2011. 9

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
研究推進室	室員	2007.8	

担当授業科目
社会心理学演習
社会心理学
心理学測定(分担)
人間科学研究演習(分担)
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習 I
対人社会心理学特定演習 II
対人社会心理学特講 I
対人社会心理学特講 II
対人社会心理学特定研究 I
対人社会心理学特定研究 II
対人社会心理学特別演習 I
対人社会心理学特別演習 II
対人社会心理学特別研究 I
対人社会心理学特別研究 II

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書(分 担執筆)	社会心理学からみた臨床社会心理学－ 個人から社会へのつながりにこそ well-being を見い出す－	大坊郁夫	2007年 7月20 日	坂本真士・丹野義彦・安 藤清志編 臨床社会心理 学, 12章, Pp. 214-228 東京大学出版会
専門著書(分 担執筆)	質問紙法	大坊郁夫	2007年 7月20 日	志水宏吉・小泉潤二編 実 践的研究のすすめ, 第7 章, Pp. 111-135. 有斐閣
専門著書(分 担執筆)	顔と化粧の心理学－「見られる」から「見 せる」自分へ－	大坊郁夫	2007年 8月10 日	伊藤学而、島田和幸編 か お・カオ・顔 ～ 顔学への ご招待～. Pp. 111-120. あいり出版
専門著書(分 担執筆)	感情と文化－顔コミュニケーションの 様相	大坊郁夫	2007年 9月25 日	鈴木直人編 感情心理 学, 第7章, Pp. 110-134. 朝倉書店
専門著書(分 担執筆)	社会心理学と人間研究	大坊郁夫	2007年 10月20 日	竹内美香・鈴木晶夫編 心理学教育再考, Pp. 149-166. 川島書店
専門著書(分 担執筆)	口から読み取れる表情	大坊郁夫	2008年 1月25 日	高戸毅・天笠光雄・葛西 一貴・古郷幹彦・須佐美 隆史・鈴木茂彦・谷口 尚・新美成司編 口と歯 の事典, < 3.3 > Pp. 36-39. 朝倉書店
学術論文	対面相互作用場面における課題達成と 社会的スキルの関連	磯友輝子・大坊郁 夫・松田昌史	2007年 5月24 日	電子情報通信学会技術研 究報告, 107(59), 7-12.

学術論文	3次元計測法による日本人の顔面表情の測定(1)ー顔形態特徴の検討ー	大坊郁夫・上出寛子	2007年 5月24日	電子情報通信学会技術研究報告, <b>107</b> (59), 107-112.
学術論文	3次元計測法による日本人の顔面表情の測定(2)ー社会的スキルとの関係ー	上出寛子・大坊郁夫	2007年 5月24日	電子情報通信学会技術研究報告, <b>107</b> (59), 113-118.
学術論文	小集団コミュニケーションにおける話者の叙述パターン	藤本 学・大坊郁夫	2007年 8月31日	社会心理学研究, <b>23</b> , 23-32.
学術論文	顔形態特徴の日中韓比較(1)-顔面表情に伴う顔形態の文化比較-	大坊 郁夫・上出寛子・趙 鏞珍・毛 新華・高橋直樹	2007年 9月30日	電子情報通信学会技術研究報告, <b>107</b> (241), 13-18.
学術論文	顔形態特徴の日中韓比較(2)ー社会的スキルとの関連からー	上出寛子・大坊郁夫村澤 博人・趙鏞珍・毛 新華・高橋 直樹	2007年 9月30日	電子情報通信学会技術研究報告, <b>107</b> (No. 241), 19-24.
学術論文	集団課題解決における他者の存在感の影響-他者の姿が課題解決を阻害する事例	松田昌史・高塚陽亮・松下光範・苗村健・大坊郁夫	2007年 11月12日	電子情報通信学会技術研究報告, <b>107</b> (308), 57-62.
学術論文	小集団による会話の展開に及ぼす会話者の発話行動傾向の影響	藤本 学・大坊郁夫	2008年 1月10日	実験社会心理学研究, <b>41</b> , 51-60.
学術論文	恋愛関係における相互作用構造の研究ー階層的データ解析による間主観性の分析ー	清水裕士・大坊郁夫	2008年 2月25日	心理学研究, <b>78</b> , 575-582.
学術論文	The study of emotional contagion from the perspective of interpersonal relationships.	Masanori Kimura, Ikuo Daibo, & Masao Yogo	2008年 3月	Social Behavior and Personality, <b>36</b> , 27-42
学術論文	社会的スキルの階層的概念	大坊郁夫	2008年 3月31日	対人社会心理学研究, <b>8</b> , 1-6.
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(1)コミュニケーションはうまくできていますか	大坊郁夫	2007年 10月1日	調剤と情報 10月号 64-65 (vol. 13. No. 10)
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(2)コミュニケーションの仕方はさまざま	大坊郁夫	2007年 11月1日	調剤と情報 11月号 80-81 (vol. 13. No. 11)
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(3)目は口以上に語る	大坊郁夫	2007年 12月1日	調剤と情報 12月号 66-67 (vol. 13. No. 12)
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(4)空間をうまく使う	大坊郁夫	2008年 1月1日	調剤と情報 1月号 62-63 (vol. 14, No. 1)
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(5)化粧の心理的な効きめ	大坊郁夫	2008年 2月1日	調剤と情報 2月号 64-65. (Vol. 14., No. 2)
エッセイ	表情・しぐさから読み取る人間心理(6)会議の達人になるためには	大坊郁夫	2008年 3月1日	調剤と情報 3月号
基調講演	円滑な対人関係を築くコミュニケーション	大坊郁夫	2007年 5月12日	日本交流分析協会関西支部 年次大会 於：アピオ大阪

講演	人間らしいコミュニケーションを目指 すーマルチ・チャネルを活かしたコミュニ ケーションカー	大坊郁夫	2007年 9月6日	FIT2007 第6回情報科学 技術フォーラム 於：中 京大学豊田キャンパス
基調講演	円滑な関係づくりの対人コミュニケー ションの力	大坊郁夫	2007年 11月24 日	2007年度日本コミュニ ケーション学会(CAJ) 第6回CAJ関西支部大 会 於：同志社大学情報 文化学部
講演	顔コミュニケーションの文化比較～顔 の表情が語るもの～	大坊郁夫	2007年 12月12 日	日本心理学会公開シンポ ジウム「人を結びつける コミュニケーション～ 感情と文化を考える～」 於：同志社大学
学会報告	Three-Dimensional Measurement of Physiognomic Features of Some Facial Expressions: The Cases of Asian Students	Ikuo DAIBO, Hiroko KAMIDE & Xinya MAO	27th July 2007	The 7th biennial conference of the Asian Association of Social Psychology, Kota Kinabalu, Malaysia

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	45	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	10	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	4	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	15	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	編集委員	2003.5	
学会	日本社会心理学会	理事	2007.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
社会心理学演習
集団力学
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
対人行動学演習
卒業演習
卒業研究
対人社会心理学特定演習 I
対人社会心理学特定演習 II
対人社会心理学特講 I
対人社会心理学特講 II
対人社会心理学特定研究 I
対人社会心理学特定研究 II
対人社会心理学特別演習 I
対人社会心理学特別演習 II
対人社会心理学特別研究 I
対人社会心理学特別研究 II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	上司との関係評価、コーピングがストレス反応に及ぼす影響	松本友一郎・釘原直樹	印刷中	日本心理学会
学術論文	相互独立的自己観・協調的自己観が社会的な手抜きに及ぼす影響	阿形亜子・釘原直樹	印刷中	対人社会心理学研究室
翻訳	テロリズムを理解するー社会心理学からのアプローチー	釘原直樹(監訳)	印刷中	ナカニシヤ出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	55	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち	社会人院生			人	留学生 0 人
博士後期課程	8	人			
うち	社会人院生	2	人		留学生 1 人
研究生	1	人			
学部生	6	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	会員	1970	
学会	日本老年社会科学会	評議員・査読委員	1990	
学会	日本社会心理学会	会員	1985	
社会貢献	大阪府社会福祉事業団	評議員	1999	
社会貢献	宝塚市市長等倫理委員	委員	2000	
社会貢献	宝塚市社会教育委員	委員	2000	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
行動学系スタッフ会議委員	幹事	2007/4	2008/3	

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
臨床老年行動学演習Ⅰ
臨床老年行動学演習Ⅱ
臨床老年行動学
卒業演習
卒業研究
臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ

臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	福祉社会の再構築	藤田綾子	2008	ミネルヴァ書房
著書	ヘルスサイエンス	藤田綾子	2008	ミネルヴァ書房
訳書	エイジングハンドブック	藤田綾子他	2008	北大路書房
学術論文	展望的記憶と加齢	増本康平他	2007	老年精神医学

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	5	人			
うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生		人			
学部生	9	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
臨床老年行動学演習Ⅰ
臨床老年行動学演習Ⅱ
臨床老年行動学
卒業演習
卒業研究
臨床死生学・老年行動学特講Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特講Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特定研究Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅰ
臨床死生学・老年行動学特別研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書 (分担執筆)	短期記憶・ワーキングメモリ	権藤恭之	2008.1	記憶の生涯発達心理学 太田 信夫, 多鹿秀継編著, 北大路書房
専門著書 (分担執筆)	感覚・知覚のエイジング	権藤恭之	2007.9	エイジング心理学—老いについての理解と支援, pp. 69-86, 谷口幸一, 佐藤眞一編著, 北大路書房
専門著書 (編集・分担執筆)	高齢者心理学	権藤恭之	2008.1	朝倉書店
専門著書 (分担執筆)	Cognitive Function of Centenarians and its Influence on Longevity	Y. Gondo L. W. Poon	2007.12	Annual Review of Gerontology and Geriatrics, Volume 27, Biopsychosocial Approaches to Longevity pp. 129-149, L. W. Poon & T. T. Perls
論文 (分担執筆)	Morbidity of Tokyo-area centenarians and its relationship to functional status	M. Takayama, N. Hirose, Y. Arai, Y. Gondo, K. Shimizu, Y. Ebihara, K. Yamamura, S. Nakazawa, H. Inagaki, Y. Masui, & K. Kitagawa	2007.7	Journals of Gerontology Series A: Biological Sciences and Medical Sciences, 62(7):774-782
論文 (分担執筆)	日本語版「WHO-5 精神的健康状態表」の信頼性ならびに妥当性—地域高齢者を対象とした検討	岩佐一・権藤恭之・ 増井幸恵・稲垣宏樹・ 河合千恵子・大塚理加・ 小川まどか・高山緑・ 藺牟田洋美・鈴木隆雄	2007	厚生の指標, 54(8); 48-55
論文 (分担執筆)	日本語版「ソーシャル・サポート尺度」の信頼性ならびに妥当性—中高年者を対象とした検討	岩佐一・権藤恭之・ 増井幸恵・稲垣宏樹・ 河合千恵子・大塚理加・ 小川まどか・高山緑・ 藺牟田洋美・鈴木隆雄	2007	厚生の指標, 54(6); 26-33
論文 (分担執筆)	地域在宅超高齢者における廃用症候群の予防を目指した訪問型介入プログラム(「自分史くらぶ」)の開発～予備的検討～	岩佐一・権藤恭之・ 増井幸恵・稲垣宏樹・ 鈴木隆雄	2007.4	老年社会科学, 29(1); 75-83
学会報告	Subjective well-being is a good predictor of all-cause mortality among middle-aged and elderly individuals living in an urban Japanese community: a 7-year population-based prospective cohort study.	H. Iwasa Y. Yoshida Y. Gondo H. Yoshida T. Suzuki	2007.5	The American Geriatric Society 2007 Annual Scientific Meeting Seattle
学会報告	地域在住高齢者の IT・電気機器の利用実態 (その2)	権藤恭之・岡田有司・ 坂井敬子・稲垣宏樹・ 増井幸恵・岩佐一・ 河合千恵子・小川まどか・ 鈴木隆雄	2007.6	第49回日本老年社会 科学大会(札幌)

学会報告	職業からの引退が夫婦関係に及ぼす影響－縦断データによる検討－	片桐恵子・権藤恭之・増井幸恵・稲垣宏樹・岩佐一・河合千恵子・小川まどか・鈴木隆雄	2007.6	第49回日本老年社会科学会大会（札幌）
学会報告	地域高齢者における性格特性と生命予後の関連 ～5因子性格モデルによる検討～	岩佐一・増井幸恵・権藤恭之・河合千恵子・稲垣宏樹・鈴木隆雄	2007.6	第49回日本老年社会科学会大会（札幌）
学会報告	超高齢者の適応に関する質的研究－健康感に関する検討－	増井幸恵・権藤恭之・河合千恵子・呉田陽一	2007.6	第49回日本老年社会科学会大会（札幌）
学会報告	ラウンドテーブル：高齢者と健康心理学	権藤恭之・増井幸恵	2007.9	第3回アジア健康心理学会議（東京）
学会報告	ワークショップ：地域住民を対象にした高齢者の調査研究の実際	権藤恭之	2007.9	日本心理学会第71回大会（東京）
学会報告	The 7 Minute Screen を用いた軽度 Alzheimer 病の鑑別	伊集院睦雄・本間昭・権藤恭之	2007.9	日本心理学会第71回大会（東京）
学会報告	超高齢者用認知機能評価尺度の拡張－項目反応理論を用いて－	増井幸恵・権藤恭之・稲垣宏樹	2007.9	日本心理学会第71回大会（東京）
学会報告	知恵の自己評価尺度における信頼性・妥当性の検討	高山緑・権藤恭之・河合千恵子・稲垣宏樹・増井幸恵・鈴木隆雄	2007.9	日本心理学会第71回大会（東京）
学会報告	百寿者のライフイベント（3）	北川公路・増井幸恵・稲垣宏樹・権藤恭之	2007.9	日本心理学会第71回大会（東京）
学会報告	Item response theory as a tool to develop performance a continuous scale performance based measure for the oldest old	Y. Gondo Y. Masui A. Davey L. Poon	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting, San Francisco
学会報告	Gene environment interactions and serotonin transporter polymorphisms in centenarian women in Japan	Y. Gondo N. Hirose	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting, San Francisco
学会報告	The social and experiential factors relevant to wisdom: social support and coping	M. Takayama Y. Gondo H. Inagaki Y. Masui	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting, San Francisco
学会報告	The relation of the oldest-old version of cognitive assessment questionnaire and the severity of dementia	Y. Masui Y. Gondo H. Inagaki N. Hirose	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting San Francisco
学会報告	Personality and all-cause mortality among older adults dwelling in a Japanese community.	H. Iwasa Y. Masui Y. Gondo C. Kawai H. Inagaki T. Suzuki	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting, San Francisco
学会報告	Wholistic classification of elderly by psychological, physical and social functions	M. Ogawa Y. Gondo Y. Masui H. Iwasa C. Kawai H. Inagaki H. Osada T. Suzuki	2007.11	The Gerontological Society of America 60 <sup>th</sup> Annual Scientific Meeting San Francisco

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	5	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生					人
学部生	9	人			
学位申請者					人

【4】2006(平成18)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本サイコオンコロジー学会	世話人/広報委員会副委員長	2005.6	
学会	日本行動医学会	教育研修委員	2005.4	
研究会	補完医療を考える会	世話人	2006.1	
研究会	膝・膝島移植研究会	QOL 委員会	2006.11	
学会	日本健康心理学会	研究企画委員・広報・ニューズレター編集委員	2007.11	
学会	日本補完代替医療学会	幹事・編集委員	2008.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
コミュニケーションデザイン・センター企画委員会	委員	19年 4 月	

担当授業科目
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
生命倫理学
医療対人関係論

【5】2006(平成18)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	大学生の特製不安と単語刺激の評価が注意バイアスと顕在的記憶に及ぼす影響	上野大介, 増本康平, 久保尚子, 平井 啓	2007	生老病死の行動科学 11:31-42
学術論文	Good Death in Cancer Care: A Nationwide Quantitative Study	Miyashita, M., Sanjo, M., Morita, T., Hirai, K., Uchitomi, Y	2007	Annals of Oncology in press
学術論文	Barrier to palliative care and priority for future task in Japan. A nationwide expert opinion survey	Miyashita, M., Sanjo, M., Morita, T., Hirai, K., Kizawa, Y., Shima, Y., Shimoyama, N., Tsuneto, S., Hiraga, K., Sato, K., Uchitomi, Y	2007	Journal of Palliative Medicine in press
学術論文	Barriers to referral to inpatient palliative care units in Japan: a qualitative survey with content analysis	Miyashita, M., Hirai, K., Morita, T., Sanjo, M., Uchitomi, Y	2007	Supportive Care in Cancer in press
学術論文	Barrier to palliative care and priority for future task in Japan. A nationwide expert opinion survey.	Miyashita, M., Sanjo, M., Morita, T., Hirai, K., Kizawa, Y., Shima, Y., Shimoyama, N., Tsuneto, S., Hiraga, K., Sato, K., Uchitomi, Y.	2007	Journal of Palliative Medicine in press
学術論文	Barriers to referral to inpatient palliative care units in Japan: a qualitative survey with content analysis	Miyashita, M., Hirai, K., Morita, T., Sanjo, M., Uchitomi, Y.	2007.2	Supportive Care in Cancer
学術論文	Barriers to providing palliative care and priorities for future actions to advance palliative care in Japan: a nationwide expert opinion survey	M. Miyashita, M. Sanjo, T. Morita, K. Hirai, Y. Kizawa, Y. Shima, N. Shimoyama, S. Tsuneto, K. Hiraga, K. Sato and Y. Uchitomi	2007.4	J Palliat Med 10(2):390-9
学術論文	Meaninglessness in Terminally Ill Cancer Patients: A Validation Study and Nurse Education Intervention Trial.	Morita T, Murata H, Hirai K, et al	2007.8	Journal of Pain and Symptom Management 34:160-170
学術論文	Preferences regarding end-of-life cancer care and associations with good-death concepts: a population-based survey in Japan.	Sanjo M, Miyashita M, Morita T, et al	2007.9	Annals of Oncology 18:1539-47
学術論文	Terminal delirium: families' experience	Namba M, Morita T, Imura C, Kiyohara E, Ishikawa S, Hirai K	2007.10	Palliat Med 21(7):587-94
学術論文	Factors contributing to evaluation of a good death from the bereaved family member's perspective.	Miyashita M, Morita T, Sato K, Hirai K, Shima Y, Uchitomi Y	2007.11	Psychooncology Online
学術論文	Measuring the regret of bereaved family members regarding the decision to admit cancer patients to palliative care units	M. Shiozaki, K. Hirai, R. Dohke, T. Morita, M. Miyashita, K. Sato, S. Tsuneto, Y. Shima and Y. Uchitomi	2007.12	Psychooncology Online

学術論文	Psychological and behavioral mechanisms influencing the use of complementary and alternative medicine (CAM) in cancer patients	Hirai, K., Komura, K., Tokoro, A., Kuromaru, T., Ohshima, A., Ito, T., Sumiyoshi, Y., Hyodo, I.	2008.1	Annals of Oncology 19: 49-55
学術論文	【緩和医療における精神症状への対策】 がん患者に対する問題解決療法	平井啓, 塩崎麻里子,	2008.1	緩和医療学 10: 37-42
学術論文	Self-efficacy, psychological adjustment and decisional balance regarding decision making for outpatient chemotherapy in Japanese advanced lung cancer.	Hirai, K., Tokoro, A., Arai, H., Naka	In press	Psychology & Health
学術論文	Discrimination between Worry and Anxiety among Cancer Patients: Development of a Brief Cancer-related Worry Inventory	Hirai, K., Shiozaki, M., Motooka, H., Arai, H., Koyama, A., Inui, H., Uchitomi, Y.	In press	Psychooncology

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	_____ 人			
うち	社会人院生 _____ 人	留学生 _____ 人		
博士後期課程	_____ 人			
うち	社会人院生 _____ 人	留学生 _____ 人		
研究生	_____ 人			
学部生	1 _____ 人			
学位申請者	_____ 人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	日本学術会議	会員	2005.10	
国・地方公共団体	中央環境審議会	臨時委員	2001.1	
国・地方公共団体	環境省独立行政法人評価委員会	委員	2005.5	
国・地方公共団体	環境省総合研究開発推進会議	検討員	2002.5	
国・地方公共団体	大阪府環境審議会	委員	2004.6	
国・地方公共団体	大阪府環境影響評価審査会	委員	2000.5	
国・地方公共団体	大阪府公害審査会	委員	1994.11	
国・地方公共団体	大阪市環境審議会	委員	2004.8	
国・地方公共団体	枚方市環境影響評価審査会	委員	2003.7	
学会	International Commission for Acoustics	理事・副会長	2007.10	
学会	International Union of Psychological Science	理事	2004.8	
学会	International Journal of Psychology	編集委員	2004.8	
学会	International Journal: Noise and Health	編集委員	1998.8	
学会	Acoustical Society of America	fellow	1996.5	

学会	Congress Selection Committee of International Institute on Noise Control Engineering	委員	2004.8	
学会	社団法人日本心理学会国際委員会	委員	2000.6	
学会	社団法人日本心理学会国際賞選考委員会	委員長	2006	
学会	日本音楽知覚認知学会	理事	1994.11	
学会	日本音響学会	評議員	2007.5	
学会	日本騒音制御工学会	評議員	2004.5	
学会	日本人間工学会	評議員	1988.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
紀要編集委員会	委員	2006.5	2008.3

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境評価学演習
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
環境心理学特講Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅰ
環境心理学特定演習Ⅱ
環境心理学特定研究Ⅰ
環境心理学特定研究Ⅱ
環境心理学特別演習Ⅰ
環境心理学特別演習Ⅱ
環境心理学特別研究Ⅰ
環境心理学特別研究Ⅱ
環境デザイン学特論
環境デザイン学特論演習
環境評価論
心理学実験

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文 (査読論文)	Subjective impression of auditory danger signals in different countries	S. Kuwano, S. Namba, A. Schick, H. Hoegel, H. Fastl, T. Fillippou and M. Florentine	2007.11	Acoustical Science & Technology (Acoustical Society of Japan)
単行本	音環境デザイン	桑野園子(編・共著)	2007.8	コロナ社
単行本	Recent Topics in Environmental Psychoacoustics	S. Kuwano (Ed.)	2007.12	Osaka University Press
会議報告 (基調講演)	Psychological evaluation of sound environment along temporal stream	S. Kuwano	2007.9	International Congress on Acoustics
会議報告 (招待講演)	Subjective evaluation of sounds with different duration	S. Kuwano and S. Namba	2007.8	International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	Relationship between subjective impression and physical properties of the sound of dental air turbine	T. Yamada, S. Ebusu and S. Kuwano	2007.8	International Congress on Noise Control Engineering
会議報告	Impression of sounds with long decay: Effect of synchronization of onset and interaural level difference	T. Yamasaki, S. Kuwano and S. Namba	2007.10	International Society of Psychophysics
会議報告 (招待講演)	Psychological evaluation and recognition of sound stimuli at water-side space	M. Morinaga, S. Kuwano, T. Kato and S. Aono	2007.12	COE symposium of Kyushu University
会議報告 (招待講演)	音環境に関する最近の研究成果—新幹線車内の音環境の心理評価	岡本健久, 桑野園子, 難波精一郎	2007.6	日本人間工学会シンポジウム
会議報告	想起された音源のラウドネス	難波精一郎, 桑野園子, 加藤徹	2007.9	日本音響学会秋季研究発表会
会議報告	音環境マネジメントのための知識創生 (日本音響学会栗屋潔学術奨励賞受賞)	松井孝典, 津田智行, 青野正二, 桑野園子, 森長誠	2007.9	日本音響学会秋季研究発表会
会議報告	連続する2つの減衰音の音色と分離感—両耳間位置と時間的重なりの影響—	山崎晃男, 桑野園子, 難波精一郎	2007.10	日本音楽知覚認知学会
会議報告	Crosscultural comparison of colour evaluation using semantic differential	H. Fastl, T. Radar, G. Boogaartl, S. Kuwano and S. Namba	2008.3	ドイツ音響学会
会議報告	空港と周辺地域との共生に関わる要因の検討(1)—空港の利便性と環境保全に関する態度調査—	難波精一郎, 桑野園子, 山田一郎, 吉岡序, 後藤恭一, 森長誠	2008.3	日本音響学会春季研究発表会
会議報告	空港と周辺地域との共生に関わる要因の検討(2)—空港ならびに周辺地域のイメージ評価に与える視覚的情報の影響—	森長誠, 難波精一郎, 桑野園子, 山田一郎, 吉岡序, 後藤恭一	2008.3	日本音響学会春季研究発表会
会議報告	歯科タービン音の音質改善に関する研究	山田 朋美, 桑野園子, 恵比須 繁之	2008.3	日本音響学会春季研究発表会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	1	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国・地方公共団体	岸和田市	環境保全審議会委員	2004.8	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
環境心理学
環境心理学演習
環境評価学演習
人間行動学実験実習 I
人間行動学実験実習 II
人間行動学実験実習 III
環境心理学特講 I
環境心理学特定演習 I
環境評価論
心理学実験

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
解説・総説	一過性域値変化を指標とした音の暴露の聴力への影響の予測	瀧浪弘章, 青野正二	2007.4	日本音響学会
解説・総説	レクリエーション活動に伴う騒音性一過性域値変化	青野正二	2007.4	日本音響学会
会議報告/口頭発表	音環境マネジメントのための知識創生	松井孝典, 津田智行, 青野正二, 桑野園子, 森長誠	2007.9	日本騒音制御工学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	35	%
社会貢献	25	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生					人
学部生	11				人
学位申請者	1				人

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	専門別代議員(第1部門)	2002.8	現在
学会	日本発達心理学会	理事	1997.4	現在
学会	日本動物心理学会	理事	1997.4	現在
社会福祉法人	都島友の会	理事・評議員	2001.8	現在
財団法人	千里ライフサイエンス振興財団	評議員	1998.6	現在
財団法人	日本モンキーセンター	評議員	2002.6	現在
財団法人	阪大微生物病研究会	治験審査委員会委員	2001.4	現在
学校法人	神戸女学院	理事・評議員	2005.4	現在
地方独立行政法人	大阪府立成人病センター	研究倫理委員会委員	2006.4	現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
施設マネジメント委員会	委員	2004.4	現在

担当授業科目
心理・行動科学入門(共通教育)
比較行動発達学
比較行動心理学
霊長類行動学演習(学部)
比較行動発達学演習(学部)
行動生態学実験実習Ⅰ(学部)
行動生態学実験実習Ⅱ(学部)
行動生態学実験実習Ⅲ(学部)
卒業演習
卒業研究
比較発達心理学特定演習Ⅰ
比較発達心理学特定演習Ⅱ
比較発達心理学特定研究Ⅰ
比較発達心理学特定研究Ⅱ
比較発達心理学特別演習Ⅰ
比較発達心理学特別演習Ⅱ
比較発達心理学特別研究Ⅰ
比較発達心理学特別研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	きょうだい関係におよぼす母親の 在・不在の影響	志澤康弘・安田 純・日野林俊彦・ 南 徹弘	2007.4	大阪大学大学院人間 科学研究科紀要
学術論文	屋内・屋外の自由遊び場面における3 歳児と5歳児の遊び行動の比較	廣瀬聡弥・日野林 俊彦・南 徹弘	2007.4	大阪大学大学院人間 科学研究科紀要
学術論文	超出生体重児の精神発達予後と評価 —軽度発達障害を中心に—	金澤忠博・安田 純・北村真知子・糸 魚川直祐・南 徹 弘・鎌田次郎・北島 博之・藤村正哲	2007.5	周産期医学
学術論文	Do pointing gestures by infants provoke comments from adults?	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	2007.8	<i>Infant Behavior and Development</i>
学術論文	Gaze following among toddlers. <i>Infant Behavior and Development</i>	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	In press	<i>Infant Behavior and Development</i>
著書(分担)	心理学における行動発達	南 徹弘	2007.6	朝倉心理学講座第3 巻 発達心理学

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	35	%
社会貢献	25	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生					人
学部生	11				人
学位申請者					人

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本心理学会	常務理事	2007. 7	
学会	関西心理学会	委員	2005. 4	
その他	千里ライフサイエンス振興財団	企画委員	2007. 10	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
比較発達心理学特別研究 I
比較発達心理学特別研究 II
比較発達心理学
比較発達心理学特定研究 I
比較発達心理学特定研究 II
比較発達心理学特定演習 I
比較発達心理学特定演習 II
比較発達心理学演習 II
比較発達心理学特別演習 I
比較発達心理学特別演習 II
人間科学のフロンティア

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書 分担執筆	発達心理学	日野林俊彦	2007.5	朝倉書店
学術論文	青年と性行動	日野林俊彦	2008.2	日本青年心理学会
国際会議	Menarche and interest in infants	Hinobayashi,T.,Akai, S.,Minami,T.,Itoigawa, N.	2007.8	13th European Conference on Developmental Psychology
大学・研究所 等の報告	超・極低出生体重児の学齢期における学力 ー学習障害の疑いのある児を中心にー	糸魚川直祐,南徹弘,日野 林俊彦,鎌田次郎,近藤清 美,金沢忠博,清水聡,山 本悦代,安田泰代,安田 純,竹内徹,藤村正哲,北 島博之	2007.4	大阪府立母子医 療センター
学術論文	Do the pointing gestures of infants provoke comments from adults?	岸本健・志澤康弘・安田 純・日野林俊彦・南 徹 弘	2007.12	<i>Infant Behavior and Development</i> , <b>30</b> , 562-567
学会発表	発達加速現象の研究・その2 1ー性別受 容と初潮ー	日野林俊彦・赤井誠生・ 安田 純・志澤康弘・山 田一憲・南 徹弘・糸魚 川直祐	2007.9	日本心理学会第 71回大会発表論 文集
学会発表	初潮の時期に及ぼす同胞数の影響	日野林俊彦・安田 純・ 志澤康弘・南 徹弘・糸 魚川直祐	2008.3	日本発達心理学 会第19回大会発 表論文集

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生					人
学部生	7				人
学位申請者					人

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	4歳保育園児の会話に占めるその場 にいない他者についての話題の割合	志澤康弘・日野林 俊彦・南 徹弘	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	養育者は乳幼児の指さしにどのよう に反応するか？	岸本 健・志澤康 弘・安田 純・日野 林俊彦・南 徹弘	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	自由遊び場面における2歳齢保育園 児の泣き行動	加藤真由子・安田 純・志澤康弘・日 野林俊彦・南 徹 弘	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	離乳期と3歳時における食行動の発 達比較	志澤美保・志澤康 弘・日野林俊彦・ 南 徹弘	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	初潮の時期に及ぼす同報数の影響	日野林俊彦・安田 純・志澤康弘・南 徹弘・糸魚川直祐	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	音声を用いた母子コミュニケーション - 離乳期のニホンザルを対象として -	山田一憲・志澤康 弘・中道正之	2008/2	日本発達心理学会
会議報告	ニホンザルの子の発声に対する母ザ ルの反応性	山田一憲、志澤康 弘、中道正之	2007/7	日本霊長類学会
会議報告	Not infants' reaching, but infants' pointing, provoke adult to comment	岸本 健、志澤康 弘、日野林俊彦、 南 徹弘	2007/8	European Society for Developmental Psychology
会議報告	食事場面における乳児の発声と母親 による聞き分け	志澤康弘、志澤美 保、日野林俊彦、 南 徹弘	2007/9	日本心理学会
会議報告	母親の食べてみせる行動と子どもの食 べる行動との関連	志澤美保、志澤康 弘、安田 純、日 野林俊彦、南 徹 弘	2007/9	日本心理学会
会議報告	幼児はどのように他児の視線を誘導す るか	岸本 健、志澤康 弘、安田 純、日 野林俊彦、南 徹 弘	2007/9	日本心理学会
会議報告	発達加速現象の研究・その21	日野林俊彦、赤井 誠生、安田 純、 志澤康弘、山田 一憲、南 徹弘、 糸魚川直祐	2007/9	日本心理学会
学術論文	Do pointing gestures by infants provoke comments from adults?	岸本 健、志澤康 弘、安田 純、日 野林俊彦、南 徹 弘	2007/12	Infant Behavior and Development Elsevier
学術論文	Gaze following among toddlers	岸本健・志澤康 弘・安田 純・日 野林俊彦・南 徹 弘	2008/印 刷中	Infant Behavior and Development Elsevier

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	55	%
教育	30	%
社会貢献	2	%
学内運営	13	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
研究生	0	人				
学部生	6	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試委員会		2007/4	
遺伝子組換え実験安全委員会			

担当授業科目
行動生理学特定演習Ⅰ
行動生理学特定演習Ⅱ
行動生理学特別演習Ⅰ
行動生理学特別演習Ⅱ
行動生理学特講Ⅰ
行動生理学特講Ⅱ
行動生理学特定研究Ⅰ
行動生理学特定研究Ⅱ
行動生理学特別研究Ⅰ
行動生理学特別研究Ⅱ
行動生理学
感覚生理学
行動生理学演習Ⅰ
行動生理学演習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
脳と行動
行動の科学

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	Roles of taste in feeding and reward. In: The Senses: A Comprehensive Reference, Vol. 4, Olfaction & Taste	Yamamoto T, Shimura T	2008.2	Academic Press
学術論文	The role of the ventral pallidum GABAergic system in conditioned taste aversion: effects of microinjections of a GABA <sub>A</sub> receptor antagonist on taste palatability of a conditioned stimulus.	Inui T, Shimura T, Yamamoto T	2007.8	Brain Research
学術論文	側坐核カンナビノイド I 型受容体による高嗜好性味溶液摂取行動の調節	篠原祐平, 志村剛, 山本 隆	2007.12	日本味と匂学会
学術論文	味覚嫌悪学習に伴う嗜好性および摂取行動変化の神経機構	乾 賢, 志村 剛	2008.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	70	%
教育	20	%
社会貢献	8	%
学内運営	2	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人					
うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
博士後期課程	1	人					
うち	社会人院生		0	人	留学生	0	人
研究生	0	人					
学部生	5	人					
学位申請者	0	人					

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生理学特別演習 I
行動生理学特別演習 II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書 (分担 執筆)	<i>Neural Plasticity and Memory: From genes to brain imaging/</i> Neural mechanisms of conditioned taste aversion as seen by electrophysiological experiments. Federico Bermudez-Rattoni (ed.).	Yamamoto, T. and <u>Yasoshima, Y.</u>	2007.	CRC press, Boca Raton, Florida, USA
学術論文 (査読有)	Differential activation of anterior and midline thalamic nuclei following retrieval of aversively motivated learning tasks.	<u>Yasoshima, Y.</u> , Scott, T.R. and Yamamoto, T.	2007.5	<i>Neuroscience</i>
学術論文 (査読有)	Efficient gene transfer via retrograde transport in rodent and primate brains by an HIV-1-based vector pseudotyped with rabies virus glycoprotein.	Kato, S., Inoue, K., Kobayashi, K., <u>Yasoshima, Y.</u> , Miyachi, S., Inoue, S., Hanawa, H., Shimada, T., Takada, M., and Kobayashi, K.	2007.11	<i>Human Gene Therapy</i>
学術論文 (査読有)	マウスの味覚嗜好性獲得に対する扁桃体の関与	北澤 美保、吉沢光、藤原宏子、佐藤亮平、宮本武典、 <u>八十島安伸</u>	2007.12	日本味と匂学会誌
会議報告	マウス味覚嗜好学習の神経基盤としての扁桃体の役割	宮本武典、船木美保、北澤 美保、吉沢 光、藤原宏子、佐藤亮平、 <u>八十島安伸</u>	2007.7	<i>Neurosci. Res. Suppl.</i>
会議報告	ドーパミン誘導性運動に対する前頭前皮質から視床下核への投射の役割	<u>八十島安伸</u> 、小林和人	2007.3	<i>J. Physiol. Sci. Suppl.</i>
会議報告	マウスの味覚嗜好性獲得に関する神経基盤：扁桃体の役割	宮本武典、船木美穂、藤原宏子、佐藤亮平、 <u>八十島安伸</u>	2007.3	<i>J. Physiol. Sci. Suppl.</i>
会議報告	Differential involvements of the locus coeruleus (LC) noradrenergic (NA) system in anxiety-related behaviors and neuroendocrine stress-responses. A study using a novel method for selective ablation of the NA neurons in the LC.	Itoi, K., Suzuki, S., Otaki, I., <u>Yasoshima, Y.</u> , and Kobayashi, K.	2007.11	<i>Neuroscience 2007, 37th annual meeting of the Society for Neuroscience Annual Meeting Abstract Viewer and Itinerary planner</i>

行動学系 乾 賢

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	40	%
社会貢献	0	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	3	人			
うち 社会人院生	1	人	留学生	0	人
研究生	0	人			
学部生	6	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習 I
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	The role of the ventral pallidum GABAergic system in conditioned taste aversion: effects of microinjections of GABAA receptors antagonist on taste palatability of conditioned stimulus.	Inui, T., Shimura, T., and Yamamoto, T.	2007.8	Brain Research

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	35	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	7	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本行動計量学会	理事	2006.4	
学会	日本行動計量学会 欧文誌「Behaviormetrika」	編集副委員長	2006.4	
学会	日本計算機統計学会 和文誌「計算機統計学」	編集委員	2005.4	
学会	日本心理学会	地域別議員	2007.4	
学会	日本心理学会 学会誌「Japanese Psychological Research」/「心理学研究」	編集委員	2005.11	
学会	International Meeting of Psychometric Society 2007 実行委員会	実行委員	2005.2	2007.7
学会	2007 年度日本統計関連学会 連合大会	企画委員	2006.10	2007.9
学会	2008 年度日本統計関連学会 連合大会	プログラム委員	2007.9	
学会	IASC2008 (国際統計計算学会 2008 年度大会) 開催国実行委員会	実行委員	2007.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学部サイバーメディア室	室長	2005.4	

担当授業科目

統計学 A-II
行動計量学
行動計量学演習 I
行動計量学演習 II
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
多変量解析論
行動データ科学特講 I
行動データ科学特定演習 I
行動データ科学特定演習 II
行動データ科学特定研究 I
行動データ科学特定研究 II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	相関行列の多変量角度分析.	足立浩平	2007年 10月	行動計量学, 34巻, 147-154.
学術論文	Trend vector representation of multiple transition matrices by penalized optimal scaling.	Adachi, K.	2008年 印刷中	Journal of the Japanese Society of Computational Statistics, 20巻
著書	実践的研究のすすめ 一人間科学のリアリティー. (小泉潤二・志水宏吉編), 154-171頁	足立浩平	2007年 7月	有斐閣
報告書	三相データの同時プロクラステス分析に関する研究	足立浩平	2008年 3月	平成18年度～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	50	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
						人
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
						人
研究生	0	人				
学部生	7	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学外講義	甲子園大学	非常勤講師	2004.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科サイバーメディア室	副室長	2003.6	
大阪大学情報ネットワークシステム委員会	委員	2003.9	
大阪大学情報システム小委員会	委員	2003.9	

担当授業科目
情報活用基礎
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
卒業演習
心理学測定(補佐)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	Analyses with Independent Component Clusters and Three-Mode Data	Miyamoto, Y.	2007.7	International Meeting of the Psychometric Society, Tokyo, Japan
会議報告	変数のクラスタリングを伴う斜交因子回転法	山本倫生・宮本友介	2007.9	日本行動計量学会第35回大会発表抄録集

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生			0	人			
学部生			2	人			
学位申請者				人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	Anthropological Science(Japanese Series) 編集委員	2005.2	
学会	日本人類学会	Anthropological Science, Editorial Board	2004.2	
学会	日本人類学会	評議員	1991.11	
学会	日本解剖学会	学術評議員	1993.4	
学会	日本霊長類学会	評議員	2005.7	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
生命科学・生命工学企画推進室	室員	2006.4.1	
動物実験委員会	委員	2003.4.1	
超高圧電子顕微鏡センター運営委員会	委員	2006.4.1	
教育研究評議会	評議員	2006.4.1	2008.3.31

担当授業科目
行動形態学特定演習 I
行動形態学特定演習 I
行動形態学特別演習 II
行動形態学特別演習 II
行動形態学特講 II
行動形態学特定 I 研究 I
行動形態学特定研究 II
行動形態学特別研究 I
行動形態学特別研究 II
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
行動生態学実験実習 I
人間科学概論 I (行動の科学)
行動形態学
行動形態学演習
生物人類学
生物人類学演習
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	形態科学 10(2)/ ゴリラ、チンパンジー とシロテテナガザルの肝臓の動脈分布	宮木孝昌、阿力木江 沙吾提、斉藤敏之、 熊倉博雄、伊藤正裕	2007.6	人類形態科学研究会
学術論文	形態科学 10(2)/ ゴリラ、チンパンジー とシロテテナガザルの膵臓の動脈分布	阿力木江沙吾提、宮 木孝昌、斉藤敏之、 熊倉博雄、伊藤正裕	2007.6	人類形態科学研究会
解説記事	脳 21/脳の表現型からみた言語の進化	俣野彰三、平崎 鋭矢、熊倉博雄	2008.1	金芳堂

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人		
うち	社会人院生	0	人	留学生 0 人
博士後期課程	1人の院生を3人の教員が指導			
うち	社会人院生	0	人	留学生 0 人
研究生	1	人		
学部生	2人の学部生を3人の教員が指導			
学位申請者	0	人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員、編集委員	1995.11	
学会	日本人類学会キネシオロジー分科会	幹事	1989.11	
学会	日本人類学会進化人類学分科会	幹事	2001.11	
学会	日本人類学会ヘルスサイエンス分科会	幹事	2002.11	
学会	日本霊長類学会	評議員、会計監査	2001.6	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
生物人類学演習
行動形態学演習
生物人類学
行動形態学
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ
行動形態学特定演習Ⅰ
行動形態学特定演習Ⅱ
行動形態学特別演習Ⅰ
行動形態学特別演習Ⅱ
行動形態学特講Ⅰ
行動形態学特講Ⅱ
行動形態学特定研究Ⅰ
行動形態学特定研究Ⅱ
行動形態学特別研究Ⅰ
行動形態学特別研究Ⅱ
人間科学フィールド演習
心理・行動科学入門

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Vertical morphology of <i>Nacholapithecus kerioi</i> based on KNM-BG35250	Nakatsukasa,M., Kunimatsu,Y., Nakano,Y. Ishida,H.	2007.4	<i>Journal of Human Evolution</i>
学術論文	Postcranial bones of infant <i>Nacholapithecus</i> : ontogeny and positional behavioral adaptation	Nakatsukasa,M., Kunimatsu,Y., <u>Nakano,Y.</u> , Egi,N, Ishida,H.	2007.12	<i>Anthropological Science</i>
研究報告書	下肢関節の伸展制限によるヒト二足歩行への影響	中野良彦	2007.3	科学研究費補助金研究成果報告書

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程		人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	0	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本人類学会	評議員	2004.4	
学会	日本人類学会 キネシオロジー分科会	幹事	2002.1	
学外講義	大阪外国語大学	非常勤講師	1998.10	2007.3
学外講義	武庫川女子大学	非常勤講師	1999.4	

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月
無し				

担当授業科目				
無し				

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	Ground-reaction-force profiles of bipedal walking in bipedally trained Japanese monkeys.	Ogihara N, Hirasaki E, Kumakura H, Nakatsukasa M	2007.10	Elsevier
学術論文	歩行中の頭部の冠状面内での動き	平崎 鋭矢	in press	慶応大学出版会
解説	前庭系とバイオメカニズム	平崎 鋭矢	2008.2	バイオメカニズム学会
シンポジウム 報告書	圧力分布センサーを用いたケータイ文字入力動作解析の試み	平崎 鋭矢	2008.5	モバイル学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	60	%
社会貢献	5	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
学部研究生	1	人			
学部生	8	人			
学位申請者(博士)	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	ヒューマンインタフェース学会	理事	2005	至現在
学会	日本人間工学会	評議員	1983	至現在
学会	日本人間工学会関西支部	評議員	1970?	至現在
学会	電子情報通信学会編集委員会	査読委員	2001?	至現在
	豊中市行財政改革推進市民会議	委員ならびに専門委員	2001	至現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
セクシャルハラスメント全学相談員	相談員	2001	2008.3

担当授業科目
感性情報心理学特講 I
感性情報心理学特講 II
感性情報心理学特定演習 I
感性情報心理学特定演習 II
感性情報心理学特定研究 I
感性情報心理学特定研究 II
感性情報心理学特別演習 I
感性情報心理学特別演習 II
感性情報心理学特別研究 I
感性情報心理学特別研究 II
行動生態学フィールドワーク実習 I、II
行動生態学フィールドワーク特別実習 I、II
卒業演習・卒業研究

行動生態学実験実習 I、II、III
感性情報心理学演習 I
感性情報心理学演習 II
感性情報心理学
心の世界
心理・行動科学入門
音楽心理学

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	打叩音によるノンバーバルコミュニケーションー感性情報の時間的性質と対人印象形成ー	河瀬諭, 中村敏枝, M. R. Draguna	2007/8	ヒューマンインタフェース学会論文誌, 391-399
学術論文	打楽器を用いた2者間相互作用における感性情報の研究	河瀬諭, 中村敏枝	2008/3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要, 165-188
学術論文	音楽行動における動きと身体~共演者間の身体動作による調整に注目して~	片平建史, 中村敏枝ほか	2007/9	音楽とウェルネスの学際的融合研究会, 1-6
学術論文	非言語的相互作用で共有される時間的性質-音響情報と身体動作の事例的研究-	河瀬諭, 中村敏枝, M. R. Draguna	2007/11	電子情報通信学会信学技報, 45-50
学術論文	音楽演奏場面におけるコミュニケーションのために用いられる非言語情報	河瀬諭, 中村敏枝ほか	2007/9	ヒューマンインタフェースシンポジウム'07 論文集, 1113-1116
学術論文	音楽聴取による感動の心理学的研究-演奏音の部分と全体に対する情動評定の関係-	安田晶子, 中村敏枝ほか	2007/9	ヒューマンインタフェースシンポジウム'07 論文集, 1117-1120
学術論文	ピアノアンサンブルにおける演奏者間の非言語コミュニケーションー演奏者の呼吸の測定ー	谷口智子, 中村敏枝ほか	2007/9	ヒューマンインタフェースシンポジウム'07 論文集, 749-752
学術論文	Communication channels performers and listeners use : survey study	S. Kawase, T. Nakamura, et al.	2007/12	International Conference on Music Communication Science 76-79
学術論文	The Role of Body Movement in Co-Performers' Temporal coordination	K. Katahira, T. Nakamura, et al.	2007/12	International Conference on Music Communication Science 72-75
学術論文	Psychological Study of Strong Experiences in Listening to Music: A Relationship between Partial and Overall Evaluations of Physical Reactions	S. Yasuda, T. Nakamura, et al.	2007/12	International Conference on Music Communication Science 184-187
学術論文	Effects of a pianist's body movements on listeners' impressions	H. Shoda, T. Nakamura, et al.	2007/12	International Conference on Music Communication Science 143-146

学会発表	ライブ演奏における演奏者間の視線行動に関する研究	河瀬諭, 中村敏枝 ほか	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	演奏者の身体動作が打叩の同期に及ぼす影響	片平建史, 中村敏枝 ほか	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	音楽聴取による感動の心理学的研究-聴取者の身体反応および情動との関係-	安田晶子, 中村敏枝 ほか	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	演奏者間において用いられる視線情報について-2人のバイオリン奏者の合奏を対象とした実験的研究-	小幡哲史, 中村敏枝 ほか	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	ピアノアンサンブルにおける演奏者間の非言語コミュニケーション-演奏音の音響特性の測定-	谷口智子, 中村敏枝 ほか	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	飲食店内のBGMの効果-実験室内における検討結果-	堀中康行, 中村敏枝, 岩宮眞一郎	2007/9	日本心理学会第71回大会発表論文集
学会発表	音楽演奏場面において用いられる視覚的手がかり	河瀬諭, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	2者の合奏における身体動作の役割-時間的調整における身体動作の重要性についての検討-	片平建史, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	音楽聴取による感動の心理学的研究-聴取者の情動との関係(2)-	安田晶子, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	バイオリン奏者が演奏中に使用する呼吸情報に関する実験的研究	小幡哲史, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	ピアノアンサンブルにおける演奏者間の非言語コミュニケーション	谷口智子, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	ピアノ演奏者の表現の違いによる聴取者の印象評定の変化	正田悠, 中村敏枝 ほか	2007/5	日本認知心理学会第5回大会発表論文集
学会発表	ピアノアンサンブルにおける演奏者間の非言語コミュニケーション-対面演奏条件・非対面演奏条件による演奏の相違-	谷口智子, 中村敏枝 ほか	2007/12	平成19年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集
学会発表	ドラム音系列における‘間’とテンポについて	岸田好生, 中村敏枝 ほか	2007/12	平成19年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集
学会発表	曲の印象形成における歌詞の影響について	森数馬, 中村敏枝 ほか	2007/12	平成19年度日本人間工学会関西支部大会講演論文集

【2】 学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	40	%

【3】 あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	0	人				
学位申請者	0	人				

【4】 2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間行動学実験実習Ⅰ
人間行動学実験実習Ⅱ
人間行動学実験実習Ⅲ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文 (国際誌・査 読有)	The study of emotional contagion from the perspective of interpersonal relationship	<u>Kimura, M.</u> , Daibo, I., & Yogo, M.	2008.3	Social Behavior and Personality
学術論文 (国内誌・査 読有)	日本語版情動伝染尺度(the Emotional Contagion Scale)の作成	木村昌紀・余語真 夫・大坊郁夫	2007.4	対人社会心理学研究
学術論文 (国内誌・査 読無)	身振り頻度の抑制に関する主観的規 範・自動性・他者からの見えに対する意 識と実際の身振り頻度との関係	荒川歩・木村昌 紀・鈴木直人	2007.4	同志社心理
会議報告 (国際会議・ ポスター)	Actor-observer asymmetry of intimacy: Judgment of intimacy based on observation of interpersonal communication between friends	Masanori Kimura	2008.2	The 9th annual meeting of Society for Personality and Social Psychology
会議報告 (国際会議・ ポスター)	Investigation into mechanism of interpersonal communication-cognition as one of social skills	<u>Masanori</u> <u>Kimura &amp; Ikuo</u> Daibo	2007.7	7th biennial conference of Asian Association of Social Psychology
会議報告 (国内会議・ 口頭発表)	関係継続の予期と社会的スキルが対人 コミュニケーションに及ぼす影響	木村昌紀・大坊郁 夫	2007.11	関西心理学会 第119回大会
会議報告 (国内会議・ 口頭発表)	関係性推測のための対人コミュニケー ション認知	木村昌紀・大坊郁 夫	2007.9	日本社会心理学会 第48回大会
会議報告 (国内会議・ WS 話題提 供)	表情模倣研究の現在: 表情認知及び 感情伝染との関連	市川寛子・田村亮 ・木村昌紀・藤村 友美・山本恭子・ 吉川左紀子	2007.9	日本心理学会 第71回大会
会議報告 (国内会 議・小講演)	対人コミュニケーション認知のメカニズム に関する研究: 行為者と観察者の視点 に基づく考察	木村昌紀	2007.6	日本グループ・ダイナ ミクス学会 第54回大会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	8	人			
うち 社会人院生	1	人	留学生	0	人
博士後期課程	2	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	1	人			
学部生	9	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国	日本学術会議	連携会員	2006. 8	在任
国	日本学術振興会	特別研究員等審査委員会専門委員 及び国際事業委員会書面審査委員	2007. 8	在任
地方公共団体	福岡地区水道事業団情報公開審査会	委員長	2004. 4	在任
学会	日本社会学理論学会	理事	2006. 9	在任
学会	日本社会学会	学会賞委員会委員	2006.11	在任
財団法人	芙蓉奨学会	評議員	2003. 6	在任

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
大学院入試運営委員会	委員	2006. 4	2008. 3
大学院人間科学研究科図書室	室長	2007. 1	在任

担当授業科目
社会学理論特定演習Ⅰ
社会学理論特定演習Ⅱ
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会学理論特別演習Ⅰ
社会学理論特別演習Ⅱ
社会学理論特別研究Ⅰ
社会学理論特別研究Ⅱ
理論社会学演習Ⅰ
理論社会学演習Ⅱ
社会環境学実験実習Ⅲ
社会環境学概論
理論社会学
理論社会学特講
現代社会を読み解く
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(共編著)	『D o ! ソシオロジー』	友枝敏雄・山田真 茂留編	2007.4	有斐閣
著書(共著)	『社会学のエッセンス』	友枝敏雄・竹沢尚 一郎・正村俊之・ 坂本佳鶴恵	2007.11	有斐閣
著書(共編著)	『社会学のアリーナへ』	友枝敏雄・厚東洋 輔編	2007.11	東信堂
報告書	『現代高校生の規範意識Ⅱ－保守化を 中心として－』	友枝敏雄・竹内慶 至・伊藤麻沙子・ 菅澤貴之・森康司 ・中村祥規・田中 祥子・小林優子・ 松吉淳也・宮田尚 子	2008.2	大阪大学大学院人間 科学研究科・社会環 境学講座・社会学理 論研究室(研究代表 者:友枝敏雄)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	45	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	1	人			
学部生	8	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	数理社会学会	庶務理事(事務局)	2007.4	2009.3
学会	日本社会学会	機関誌『社会学評論』の専門委員	2006.12	2009.12?
学会	関西社会学会	機関誌の専門委員	2007.9	2010.5
学会	数理社会学会	機関誌『理論と方法』の査読(職名はなし)	依頼に応じて随時	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
社会学理論特定演習 I
社会学理論特定演習 II
社会学理論特定研究 I
社会学理論特定研究 II
社会学理論特別演習 I
社会学理論特別演習 II
社会学理論特別研究 I
社会学理論特別研究 II
社会環境学演習 II
社会環境学演習 I
社会環境学概論
人間科学方法実習 I
人間科学概論 II
卒業演習

社会情報学特講
社会情報学
社会環境学実験実習Ⅲ
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	大学進学率の階級間格差に関する合理的選択理路の検討:相対的リスク回避仮説の1995年SSM調査データによる分析『大阪大学大学院人間科学研究科紀要』33:201-212.	太郎丸 博	2007.3	大阪大学大学院人間科学研究科
学術論文	「若年非正規雇用・無業とジェンダー——性別分業意識が女性をフリーターにするのか?——」『ソシオロジ』52(1):pp.37-51.	太郎丸博	2007.5	社会学研究会
学術論文	「若者の求職期間と意識の関係 —「やりたいこと」は内定率に影響するか—」『理論と方法』22(2):155-168.	太郎丸博・吉田崇	2007.10	数理社会学会
著書	「年非正規雇用と社会階層」『講座社会学13 社会階層』	太郎丸 博	2008.3	東京大学出版会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	45	%
教育	20	%
社会貢献	0	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生		2	人	留学生
研究生					
学部生					
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
適塾管理運営委員会	委員	平成17年4月	

担当授業科目
社会環境学概論
現代社会学
現代社会学特講
現代社会学特定演習Ⅰ(A)、現代社会学特定演習Ⅱ(B)
現代社会学特定研究Ⅰ、現代社会学特定研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「批判理論の変貌によせて」	木前利秋	2007年10月24日	岩波書店
単著	『メタ構想力』	木前利秋	2007年3月28日	未来社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	60	%
教育	25	%
社会貢献	5	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	3	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	25	人				
学位申請者	1	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
社会調査法
社会調査法特講
現代文化を読み解く
社会調査演習 I
社会環境学実験実習 III
社会環境学実験実習 I
社会調査特定演習 I
社会調査特定演習 II
人間科学方法実習 I
人間科学方法実習 II
社会調査特別演習 I
社会調査特別演習 II
経験社会学特定研究 I
経験社会学特別研究 I
経験社会学特定研究 II
経験社会学特別研究 II
行動マクロ社会学特定研究 I
行動マクロ社会学特別研究 I

行動マクロ社会学特定研究Ⅱ
行動マクロ社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	『実践的研究のすすめ』／「研究をデザインする」	川端亮	2007年 6月	有斐閣
著書	『宗教を理解すること』／「量的データを用いた宗教理解の可能性」	川端亮・松谷満	2007年 4月	創元社
論文	Journal of Computer-Mediated Communication, Vol. 12 / Online Religion in Japan: Websites and Religious Counseling from a comparative Cross-Cultural Perspective	Akira Kawabata Takanori Tamura	2007年 4月	International Communication Association
書評	『宗教研究』81(3)／「島菌進著『スピリチュアリティの興隆』」	川端亮	2007年 12月	日本宗教学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	8	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	4	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人	0		0	
学部生	26	人	0		1	
学位申請者	1	人	0		0	

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	社会調査士資格認定機構	機関紙編集委員	2007.11	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
経験社会学
社会環境学実験実習Ⅱ
社会環境学実験実習Ⅲ
経験社会学特講
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
社会環境学概論
社会データ科学特定研究Ⅰ
社会データ科学特定研究Ⅱ
社会データ科学特別研究Ⅰ
社会データ科学特別研究Ⅱ
行動マクロ動学特定演習Ⅰ
行動マクロ動学特定演習Ⅱ
行動マクロ動学特別実習Ⅰ
行動マクロ動学特別実習Ⅱ
社会調査特定演習Ⅰ
社会調査特定演習Ⅱ
社会調査特別演習Ⅰ
社会調査特別演習Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	『階層化する社会意識』	吉川徹編著	2007.11	勁草書房
著書	『Do! ソシオロジー』分担執筆	友枝敏雄・山田真 茂留編	2007.4	有斐閣
著書	『実践的研究のすすめ』分担執筆	小泉潤二・志水宏 吉編	2007.6	有斐閣
著著	『講座社会学 13 階層』	直井優・藤田英典 編	2008.2	東京大学出版会
著書	『リーディングス 戦後日本の格差と不平 等 ゆれる平等神話』	白波瀬佐和子編	2008.2	日本図書センター

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	50	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	1
博士後期課程	6	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	15	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
国	日本学術会議	連携会員	2006. 8	在任
国	日本学術振興会	特別研究員等審査委員会委員及び 国際事業委員会書面審査委員	2007. 8	2008. 7
地方公共団体	豊中市	男女共同参画審議会委員委	2004. 1	在任
独立行政法人	大学評価・学位授与機構	大学機関別認証評価委員会専門委員	2007. 6	2008.4
学会	日本社会学会	理事、倫理委員長、研究活動委員	2006.10	在任
学会	比較家族史学会	理事	2004.10	在任
学会	日本社会学会	若手研究者問題検討特別委員会委員	2007.11	在任

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
アカデミック・ハラスメント特別小委員会(人権委員会)	委員	05.02	在任

担当授業科目
社会環境学演習Ⅰ
社会環境学演習Ⅱ
家族社会学
コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特定研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅰ
コミュニケーション社会学特別研究Ⅱ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅱ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ

コミュニケーション社会学特別演習 II
現代の差別を考える-女性学・男性学
基礎演習
人間科学概論(人間と社会)

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	「新しい女・モガ・良妻賢母---近代日本の女性像のコンフィギュレーション」	牟田和恵	08.03	お茶の水女子大学
講演録	「グローバリゼーションと家族の変容」足立真理子他編『フェミニスト・ポリティクスの新展開』	牟田和恵	07.09	明石書店

社会学系 辻 大介

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	45	%
社会貢献	10	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 1 人
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
研究生	0	人			
学部生	18	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本マス・コミュニケーション学会	理論研究部会幹事	2007.7	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
コミュニケーション社会学特講
コミュニケーション社会学特定研究 I
コミュニケーション社会学特定研究 II
コミュニケーション社会学特別研究 I
コミュニケーション社会学特別研究 II
コミュニケーション社会学特定演習 II
コミュニケーション社会学特別演習 II
社会環境学概論
コミュニケーション社会学
社会環境学実験実習 II
文化社会学演習 I
文化社会学演習 II
卒業演習
卒業研究

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	メディア・コミュニケーション学	橋元良明・辻大介 ほか	2008.3. (予定)	大修館書店
調査報告	ユビキタス社会のケータイ利用と親子関係	橋元良明・辻大介 ほか	2007.6	東京大学 21 世紀 COE「次世代ユビキタ ス情報社会基盤の形 成」報告書

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生		人
博士後期課程	6	人			
うち 社会人院生	2	人	留学生		人
研究生	1	人			
学部生	26	人	牟田・辻教官と共同		
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
医学部保健学科倫理委員会	倫理委員	2007.2.1	

担当授業科目
現代文化を読み解く(共通教育 現代教養科目)
臨床社会学
臨床社会学特講
社会環境学実験実習 III
卒業演習
卒業研究
文化社会学特定演習 1,II
文化社会学特別演習 1,II
文化社会学特定研究 1,II
文化社会学特別研究 I, II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
その他	実践的研究のすすめ/コンタクトから発表まで	山中浩司	2007.7	有斐閣

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	1
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	2	人			
学部生	5	人			
学位申請者	3	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
留学生センター教授会	構成員	2004.7	
人科国際交流室会議	構成員	2003.9	
英語表記WG	構成員	2004.1	
人科動物実験委員会	構成員	2006.5	
H.18年度入学生クラス担任教員	担任教員	2006.4	

担当授業科目
グローバル社会学特定実習Ⅰ(前期課程)
グローバル社会学特定実習Ⅱ(前期課程)
グローバル社会学特定実習Ⅰ(後期課程)
グローバル社会学特定実習Ⅱ(後期課程)
基礎セミナー:参与観察入門
人間科学概論Ⅱ(現代の差別を考える:女性学・男性学)
社会学理論特定研究Ⅰ
社会学理論特定研究Ⅱ
社会環境学卒論演習
社会環境学実験自習Ⅲ
人間科学フィールド演習
比較社会学
比較社会学特講

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
書評	<i>VoiceMale: What Husbands Really Think about Their Marriages, Their Wives, Sex, Housework, and Commitment.</i>	Scott NORTH	2007.7	Men and Masculinities
共著	『実践的研究のすすめ』	スコット・ノース	2007.7	有斐閣
社会評論	“Japan: Get a Life.”	Scott NORTH	2007.6.2	Asia Times
論文	“Can Anything Be Done? Evaluating the Liberal Prescriptions for America’s Malaise.”	Scott NORTH	2007. 3	大阪大学人間科学研究科

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程		人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	2	人			
学部生	4	人			
学位申請者	2	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
財団法人	三井住友海上福祉財団	理事	2005.7.1.	
		選考委員	2004.8.20.	
社会福祉法人	大阪府社会福祉協議会	社会貢献基金運営委員会委員長	2004.12.1.	
社会福祉法人	奉優会	評議員	2004.5.24.	
社会福祉法人	浴風会・国際長寿センター	理事	2005.4.1.	
社会福祉法人	こころの家族	評議員	2006.6.13	
学校法人	放送大学学園	客員教授	2007.4.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
中之島講座運営委員会(全学委員会)	委員	2005.4.1.	2008.3.31
運営会議(部局委員会)	委員	2005.4.1.	2008.3.31
副部局長		2006.4.1.	2008.3.31
ボランティア人間科学講座(部局委員会)	幹事	2005.4.1.	2007.9.30

担当授業科目
社会保障政策論Ⅰ
社会保障政策論Ⅱ
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅰ
ボランティア人間科学実験演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
社会保障政策論特講Ⅰ

社会保障政策論特講Ⅱ
社会保障政策論特定演習Ⅰ
社会保障政策論特定演習Ⅱ
社会保障政策論特定研究Ⅰ
社会保障政策論特定研究Ⅱ
社会保障政策論特別演習Ⅰ
社会保障政策論特別演習Ⅱ
社会保障政策論特別研究Ⅰ
社会保障政策論特別研究Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
解説・総説	介護福祉士・社会福祉士 20 年	堤 修三	2007.4	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	後期高齢者医療の不可解ーその2	堤 修三	2007.4	月刊介護保険情報
解説・総説	「連帯」考	堤 修三	2007.5	月刊介護保険情報
解説・総説	医療におけるエイジズム	堤 修三	2007.5	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	ドイツ医療保険の終焉	堤 修三	2007.6	月刊介護保険情報
解説・総説	限りなく非営利に近い営利法人	堤 修三	2007.6	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	管理型法から自立型法へ	堤 修三	2007.7	月刊介護保険情報
解説・総説	拡がり続ける法律と国民の距離	堤 修三	2007.7	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	介護保険サービスとアメリカ型経営	堤 修三	2007.8	月刊介護保険情報
解説・総説	給付費抑制政策の転換はできるか	堤 修三	2007.8	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	福祉法の空洞化現象	堤 修三	2007.9	月刊介護保険情報
解説・総説	介護人材確保のために	堤 修三	2007.9	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	都道府県単位の保険者再編と医療保険の一元化(「2007 年度医療白書」第4部)	堤 修三	2007.7	日本医療企画
会議報告	特定健診・保健指導の医療保険者への義務付けと地域保健	堤 修三	2007.10	公衆衛生学会総会
解説・総説	財政構造改革法と骨太方針 2006	堤 修三	2007.10	月刊介護保険情報
解説・総説	官僚機構はなぜ誤るのか	堤 修三	2007.10	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	保険者とサービス	堤 修三	2007.11	月刊介護保険情報
解説・総説	国庫負担の支離滅裂	堤 修三	2007.11	月刊シニアビジネスマーケ
解説・総説	被用者保険の保険者間格差とその是正	堤 修三	2007.11	社会保険旬報
解説・総説	福祉元年の清算と社会保障の新展開	堤 修三	2007.12	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	後期高齢者医療の行く末	堤 修三	2007.12	月刊介護保険情報
解説・総説	分断される社会/すり潰される人々	堤 修三	2008.1	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	メタボリックー神教	堤 修三	2008.1	月刊介護保険情報
解説・総説	後期高齢者医療制度で再生できるか	堤 修三	2008.1	月刊保険診療
解説・総説	特定健診・保健指導の制度化とこれからの公衆衛生	堤 修三	2008.3/4	月刊保団連
解説・総説	事情と理由	堤 修三	2008.2	月刊介護保険情報
解説・総説	個別対応と大量処理	堤 修三	2008.2	月刊シニアビジネスマーケット
解説・総説	混合診療解禁論議雑感	堤 修三	2008.3	月刊介護保険情報
解説・総説	介護労働者人材確保特別措置法案を読んで	堤 修三	2008.3	月刊シニアビジネスマーケット

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	5	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 0 人
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 1 人
研究生	0	人			
学部生	12	人	(2~4 回生)		
学位申請者	2	人	(修士のみ)		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本地域福祉学会	理事	2005.6	2007.6
学会	日本社会福祉学会	査読委員	2005.6	未定
学会	北ヨーロッパ学会	事務局長	2006.11	2008.11
学術誌	日本生命済生会『地域福祉研究』	編集委員	1998.6	未定
委員	大阪府・地域福祉支援計画推進委員会	副委員長	2006.5.30	2008.5.29
委員	大阪市・総合計画審議会	委員	2006.11.1	2008.10.31
委員	神戸市・市民福祉調査委員会	委員	2006.7.29	2009.7.28
委員	大阪市・人権施策推進審議会	委員	2006.11.1	2008.10.31
委員	財団法人連合総合研究開発研究所	研究会委員	2006.2.7	2007.10.31
委員	財団法人地方自治研究機構	研究会委員	2006.6.11	2008.3.31

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教務委員会	教務委員	2006.5	2008.4

担当授業科目
比較福祉論特別演習Ⅰ (院・後期)
比較福祉論特別演習Ⅱ (院・後期)
比較福祉論特別研究Ⅰ (院・後期)
比較福祉論特別研究Ⅱ (院・後期)
比較福祉論特定演習Ⅰ (院・前期)
比較福祉論特定演習Ⅱ (院・前期)
比較福祉論特定研究Ⅰ (院・前期)
比較福祉論特定研究Ⅱ (院・前期)
比較福祉論特講Ⅰ (院)
比較福祉論特講Ⅱ (院)
比較福祉論Ⅰ (5セメ)

比較福祉論Ⅱ（6セメ）
ボランティア学演習Ⅰ（6セメ）
ボランティア学演習Ⅱ（7セメ）
ボランティア学実験実習Ⅰ（4セメ）
ボランティア学実験実習Ⅱ（5セメ）
ボランティア学実験実習Ⅲ（6セメ）
卒業研究
卒業演習
ボランティア論（共通教育）※リレー講義
人間科学概論（1セメ）※リレー講義

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	「女性環境の整備と福祉 ワーク・ライフ・バランスの視点から」 岡澤憲英・連合総合生活開発研究所編 『福祉ガバナンス宣言・市場と国家を超えて』(173-192pp.)	斉藤弥生	2007.11	日本経済評論社
著書	「対談ー北欧はモデルか 斉藤弥生× 武川正吾」 岡澤憲英・連合総合生活開発研究所編 『福祉ガバナンス宣言・市場と国家を超えて』(193-204pp.)	斉藤弥生・武川正 吾	2007.11	日本経済評論社
著書	「3-1 海外に学ぶ(1)スウェーデン」 旭洋一郎・吉本充暢編著『社会福祉の 新潮流③障害者福祉論 基本と事例』 (232-241pp.)	斉藤弥生	2007.5	学文社
論文	世界が模索する「介護市場化」 週刊エコノミスト 2007年9月11号 (48-51pp.)	斉藤弥生	2007.9	毎日新聞社
報告書	「日本・ノルウェーにおける介護保障と福 祉行政システムに関する国際比較研 究」(平成17年度～19年度科学研究費 補助金・(基盤(C))研究成果報告書	斉藤弥生	2008.3	—
監訳	ビョーン・アルビン他著「スウェーデンに おける高齢者の家族介護者の家族介護 者の現状」(Björn Albin, Christina Siwertsson & Jan-Olof Svensson. <i>Situation for carers of the elderly in Sweden.</i> ) (72-83pp.)	斉藤弥生(監訳) 久保恵理子(訳)	2008.3	日本生命済生会
座談会	「地域包括ケアの現状と課題ー地域包 括支援センターが始まって1年」 (62-71pp.)	斉藤弥生他	2008.3	日本生命済生会
口頭発表	<i>Recent Developments in the Japanese Welfare State and the Elderly Care in Japan.</i>	Yayoi Saito	2007.8	Dept of Sociology, University of Bergen (Norway)
口頭発表	<i>Care Providers in the Long-Term Care Insurance System in Japan.</i>	Yayoi Saito	2007.9	The NTNU Japan Program, NTNU (Norway)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	25	%
社会貢献	5	%
学内運営	45	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
「都市とメディア」

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	現代の新聞と人々の意識——全国紙の内容分析は社会調査の一環たりうるか	樋口耕一	2007.5	関西社会学会第 58 回大会
会議報告	「計量テキスト分析」の提案と実践 (ワークショップ「テキストマイニングによる内容分析の現状と課題」)	樋口耕一	2007.9	日本社会心理学会第 48 回大会
会議報告	「計量テキスト分析」による言語データの解釈	樋口耕一	2007.10	関西学院大学大学院社会学研究科 21 世紀 COE プログラム 2007 年度連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」第 3 回「社会調査と言語」

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	8	人	(3 教員で指導)		
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本科学哲学会	編集委員	1999.4	
学会	日本科学哲学会	評議員	2003.4	
学会	科学基礎論学会	評議員	2005.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試委員会	委員	2006.4	2008.3

担当授業科目
人間科学基礎理論特講
科学基礎論特定演習 I (前期課程)
科学基礎論特定演習 II (前期課程)
科学基礎論特定研究 I
科学基礎論特定研究 II
言語・情報論特講
論理科学特定演習 I (前期課程)
論理科学特定演習 II (前期課程)
論理科学特定研究 I
論理科学特定研究 II
科学基礎論特別演習 I (後期課程)
科学基礎論特別演習 II (後期課程)
科学基礎論特別研究 I
科学基礎論特別研究 II
論理科学特別演習 I (後期課程)
論理科学特別演習 II (後期課程)
論理科学特別研究 I

論理科学特別研究 II
言語・情報論
人間科学基礎理論
基礎人間科学演習 II
現代人間科学実験実習 I
現代人間科学実験実習 II
現代人間科学実験実習 III
主題別教育科目「言葉と心」
基礎人間科学概論
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	“A New Analysis of the Structure of Social Reality,” <i>SOCREAL 2007: Proceedings of the International Workshop on Philosophy and Ethics of Social Reality</i> “	Yasuo Nakayama	2007.	Sapporo, Japan, <a href="http://hdl.handle.net/2115/29932">http://hdl.handle.net/2115/29932</a> ,. 35-44.
著書	“Dynamic Interpretations and Interpretation Structures,” in A. Sakurai et. al. (eds.) <i>JSAI 2003 and 2004 Conferences and Workshops</i> , LNAI 3609.	Yasuo Nakayama	2007.	Springer Verlag, 394-404
会議報告	AGM モデルを用いた合理的欲求の分析	中山康雄	2007.9	日本認知科学会第2 4回大会発表論文 集, 226-227
監訳	セオドア・サイダー『四次元主義の哲学 — 持続と時間の存在論』	中山康雄	2007.10	春秋社, 437+25
解説	「監訳者解説」セオドア・サイダー『四次元主義の哲学 — 持続と時間の存在論』(中山康雄(監訳))	中山康雄	2007.10	春秋社, 417-423
解説	「用語解説」セオドア・サイダー『四次元主義の哲学 — 持続と時間の存在論』(中山康雄(監訳))	中山康雄	2007.10	春秋社, 424-433
学術論文	時間的可能性の分析	中山康雄	2008.3	大阪大学人間科学研究科紀要34, 291-309

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

＜人数＞

博士前期課程	10	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生
博士後期課程	5	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生		人			
学部生	8	人			(現代哲学系全体で)
学位申請者	5	人			(現代哲学系全体で)

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本哲学会	編集委員	2005.7	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
教務委員		2006.4		

担当授業科目
行為と倫理
基礎人間科学演習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅰ
基礎人間科学実験実習Ⅱ
基礎人間科学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
基礎人間学特定研究Ⅰ
基礎人間学特定研究Ⅱ
基礎人間学特講
行為と倫理特講
現代記号学特定演習Ⅰ
現代記号学特定演習Ⅱ
基礎人間学特別演習Ⅰ
基礎人間学特別演習Ⅱ
基礎人間学特別研究Ⅰ
基礎人間学特別研究Ⅱ
現代記号学特別研究Ⅰ
現代記号学特別研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
共編著	『ドゥルーズ＝ガタリの現在』	小泉義之・鈴木 泉・檜垣立哉	2007.1	平凡社
論文	「永遠の現在 ドゥルーズの時間論 (2)」『思想6月号』	檜垣立哉	2007.6	岩波書店
論文	「西田幾多郎と生の哲学」『西田哲 学会年報』	檜垣立哉	2007.7	西田哲学会
論文	「生殖と他者」『実存思想協論集』	檜垣立哉	2007.7	理想社
共著	『実践的研究者のすすめ』	志水宏吉・小泉 潤二	2007.7	有斐閣
共著	『レトリックを学ぶひとのために』	菅野盾樹	2007.7	世界思想社
共著	『現代哲学の基礎概念』	菅野盾樹	2008.3 刊行予定	大阪大学出版会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生			留学生	1
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生			留学生	1
研究生		人			
学部生	1	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
全集	Globalisierung und Entwicklungspolitik (Vienna)	編集委員	2004. 1 2	現在まで
全集	Neue Fischer Weltgeschichte, 20冊 (Frankfurt)	編集委員	2003. 8	現在まで
全集	Edition Weltgeschichte (Vienna)	編集委員	2002. 8	現在まで
国際雑誌	Max Weber-Studies (London)	編集委員	2000. 6	現在まで
国際雑誌	International Political Anthropology (Firenze)	編集委員	2008. 1	現在まで

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
安全衛生委員会	委員	2004.4	現在まで
防災対策委員会	委員	2004.4	現在まで
国際交流室	委員	2004.4	現在まで
図書室	委員	2004.4	現在まで
国際交流委員会(全学)	委員	2004.4	現在まで
国際交流委員会 WG(学術交流協定/日本語研修生制度)(全学)	委員	2004.4	現在まで
国際交流委員会選考委員会(全学)	委員	2004.4	現在まで

担当授業科目
比較思想史
比較文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
比較文明学特定研究Ⅰ・Ⅱ
比較文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
比較文明学特別研究Ⅰ・Ⅱ
比較思想史特講
卒業演習
卒業研究
現代人間科学演習Ⅰ
現代人間科学演習Ⅱ
比較思想史
現代人間科学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
インターフェイス文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
インターフェイス文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
人間科学概論
基礎人間科学概論
人間科学のフロンティア
歴史学のフロンティア
共通教育英語講義

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
編集者	The Power of Memory in Modern Japan	W. Schwentker	2008.3	Folkestone: Global Oriental
論文	World History Writing in Postwar Japan: Eguchi Bokuro and his Legacy	W. Schwentker	印刷中	Global History Projectの報告書
論文	グローバル化と歴史学	W. Schwentker	2007.5	西洋史学
論文	解釈学の根本問題	W. Schwentker	2007.7	有斐閣
概念集の諸項目	解釈学的差異、寛容のパラドックス、記憶、希望、近代化、合理化/合理性、軸の時代、正義、文明の衝突、理念型	W. Schwentker	2008.3	大阪大学出版会
書評	Manfred Kittel, Nach Nürnberg und Tokio. München 2004	W. Schwentker	2007.5	Periplus
書評	Noguchi Masahiro, Kampf und Kultur	W. Schwentker	印刷中	Max Weber-Studies
書評	Petra Buchholz, Schreiben und Erinnern	W. Schwentker	印刷中	Jahrbuch für Überseegeschichte 2007
書評	Andre Sorensen, The Making of Urban Japan	W. Schwentker	印刷中	Jahrbuch für Überseegeschichte 2007
書評	Kaempfer-Studien	W. Schwentker	印刷中	Jahrbuch für Überseegeschichte 2007

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生			留学生	1
博士後期課程	18	人			
うち	社会人院生			留学生	3
研究生	5	人			
学部生	17	人			
学位申請者	2	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
共同研究	国立民族学博物館	共同研究員	2007.4	
共同研究	京都大学東南アジア研究所	学外研究協力者	2007.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
文化人類学実験実習 III
文化人類学実験実習 I
文化人類学実験実習 III
基礎人間科学概論
基礎人間科学概論
文化人類学
人間と文化
人間と文化特講
人間の世界
人類学理論特講
人類学特定研究 II
人類学特別研究 II
卒業研究
卒業演習
人類学特定演習 II
人類学特別演習 II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
論文	フィールドワーク:出会いとすれ違い	中川敏	2007	有斐閣
論文	From Paddy to Vanilla, Elephant Tusks to Money	Satoshi Nakagawa	2007	Asian and African Area Studies 7(1)
論文	コスモスからピュシスへ:人類学近 代論の試み	中川敏	2007	『文化人類学』72(4)
論文	エンデで家を立てる方法:資源とし ての貨幣と資源でない貨幣	中川 敏	2007	弘文堂

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
博士後期課程	18	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	3
研究生	5	人			
学部生	17	人			
学位申請者	2	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本アフリカ学会	理事	2002.4	
学会	日本文化人類学会	理事	2003.4	
学会	日本ナイル・エチオピア学会	評議員	1992.4	
公益信託	澁澤民族学振興基金	運営委員	2001.4	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
大阪大学総合学術博物館運営委員会	委員	2004.4		

担当授業科目
文化人類学
基礎人間科学演習 I
基礎人間科学演習 II
基礎人間科学実験実習 I
基礎人間科学実験実習 II
基礎人間科学実験実習 III
人類学理論特講(B)
卒業演習
卒業研究
人類学特定演習 I (A)
人類学特定演習 II (A)
人類学特別演習 I (B)
人類学特別演習 II (B)
人類学特定研究 I
人類学特定研究 II

人類学特別研究Ⅰ
人類学特別演習Ⅱ
人間と文化特定演習Ⅰ
人間と文化特定演習Ⅱ
人間と文化特別演習Ⅰ
人間と文化特別演習Ⅱ
人間と文化特定研究Ⅰ
人間と文化特定研究Ⅱ
人間と文化特別研究Ⅰ
人間と文化特別研究Ⅱ
インターフェイス人類学特講Ⅰ
インターフェイス人類学特講Ⅱ
インターフェイス人類学特別講義Ⅰ
インターフェイス人類学特別講義Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「戦後スーダンの政治的動態—包括的平和協定の調停から1年3ヵ月を経て」『海外事情』54巻4号	栗本英世	2006年 4月	拓殖大学海外事情研究所
学術論文	「グローバル化、ディアスポラ、エスニック・マイノリティーエチオピア・ガンベラ地方におけるアニューワ人の虐殺をめぐって」日本平和学会編『グローバル化と社会的「弱者」』(『平和研究』31号)	栗本英世	2006年 9月	早稲田大学出版部
学術論文	「『あなたのクラン名はなんですか?』—変容するアニューワ社会における出自集団」田中雅一・松田素二編『ミクロ人類学の実践—エイジェンシー／ネットワーク／身体』	栗本英世	2006年 11月	世界思想社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生			留学生	1
博士後期課程	18	人			
うち	社会人院生			留学生	3
研究生	5	人			
学部生	17	人			
学位申請者	2	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本文化人類学会	理事、学会誌編集副主任	2006. 4	2008. 3
	日本オセアニア学会	会員		
客員	東京大学社会科学研究所	客員教授	2007. 4	2008. 3
共同研究	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2007. 4	2008. 3
	国立民族学博物館	共同研究員	2007. 4	2008. 3
奨学基金運営	公益信託 山本猛夫記念奨学基金運営委員会	運営委員	2007. 4	2008. 3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
広報委員会	広報委員	2007. 4	2008. 3
学生支援委員会	学生支援委員	2007. 4	2008. 3

担当授業科目
文化人類学演習 I
人間と文化特定演習 I
人間と文化特別演習 I
人間と文化特定研究
人間と文化特別研究
卒業研究
人間と文化
人間と文化特講
文化人類学

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	貨幣と資源	春日直樹(編著)	2007. 12	弘文堂(東京)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	9	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育思想史学会	理事・編集委員長	2006.10	
学会	教育哲学会	編集委員	2005.10	
学会	教育哲学会	理事	2007.10	
	大阪市立丸山小学校	評議委員	2006	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
教育実習等専門部会	副委員長	2004.4		
図書委員会	委員			
国際交流委員		2007.4		

担当授業科目
人間科学フィールド演習
人間科学のフロンティア
臨床教育学概論
基礎セミナー(子どもの現在)
実践教育論 C
教育人間学 I
教育人間学 II
教育人間学演習 I
教育人間学演習 II
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
卒業演習

卒業研究
教育人間学特講Ⅰ
教育人間学特講Ⅱ
教育人間学特定演習Ⅰ
教育人間学特定演習Ⅱ
教育人間学特定研究Ⅰ
教育人間学特定研究Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	「1930年代日本における優生思想の展開－アカデミックな言説の独走」(単著)、平成16-18年度科学研究費補助金・基盤研究(B)・研究成果報告書『日独比較による戦前・戦時・戦後教育学の連続性と非連続性』、研究代表者・坂越正樹、研究課題番号16330153、2007年、65-91頁。	藤川信夫	2007年	
著書	<i>Concepts of Aesthetic Education, Japanese and European Perspectives</i> (共著), pp. 97-121.	藤川信夫・原真	2007年	Waxmann
著書	『実践的研究のすすめ－人間科学のリアリティ』(共著) 175-177頁。			有斐閣
著書	『教育学における優生思想の展開－歴史と展望』(編著)、3-38、69-137、227-246、459-473頁。			勉誠出版
著書	『教育学概論』(共著)、2009年3月出版予定。			福村出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	教育思想史学会	編集幹事	2006.9	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育人間学

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(共著)	教育学における優生思想の展開 －歴史と展望－ 『『青い芝の会』の思想と運動』 267-296 頁	藤川 信夫編著 森岡 次郎	2008.2	勉誠出版
著書(共著)	教育学における優生思想の展開 －歴史と展望－ 『『新優生学的欲望』と『他者への欲望』』 439-459 頁	藤川 信夫編著 森岡 次郎	2008.2	勉誠出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	10	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
博士後期課程	2	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
研究生	0	人				
学部生	34	人				
学位申請者	1	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
教育心理学 I
教育心理学演習 I
臨床教育学実験実習 I
人格心理学特講
教育心理学特別研究 I
教育心理学特別研究 II
教育心理学特別演習 I
教育心理学特別演習 II
教育心理学特定研究 I
教育心理学特定研究 II
教育心理学特定演習 I
教育心理学特定演習 II
臨床心理基礎実習 II
臨床教育学概論
卒業演習
卒業研究

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	性暴力の理解と治療教育	藤岡淳子	2006.7	誠信書房
学術論文	攻撃性と衝動性の精神療法	藤岡淳子	2006.8	
学術論文	非行少女の性虐待体験と支援方法について	藤岡淳子, 寺村堅志	2006.12	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	32	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
講師等	茨木市公立小学校	授業および教育支援アドバイザー	2007. 4	
講師等	豊中市公立小学校	授業および教育支援アドバイザー	2007. 4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
入試調査専門委員会	委員	2005. 3.	
附属図書館本館運営委員会	委員	2006. 4.	
部局安全衛生委員	委員	2006. 4.	
教務委員会	委員	2007. 4.	

担当授業科目
人間科学概論Ⅲ
人間科学のフロンティア
対人関係の心理学
臨床教育学概論
発達教育学
教育心理学Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅱ
教育心理学演習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
教育心理学特講
教育心理学特定演習Ⅰ
教育心理学特別演習Ⅰ

教育心理学特定研究Ⅰ
教育心理学特定研究Ⅱ
教育心理学特別研究Ⅰ
教育心理学特別研究Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	学ぶ意欲を育てる人間関係づくり —動機づけの教育心理学—	中谷 素之	2007. 5.	金子書房
翻訳	『大学生が自己調整学習者になる ための教授』 『学習課題における子どもの自己 調整の獲得と実行に影響する要因』 塚野州一編訳「自己調整学習の実 践」(Schunk, D. H. & Zimmerman, B. J.. 1998 Self-Regulated Learning: From Teaching to Self-reflective Practice. Gilford Press.)	中谷 素之	2007. 9.	北大路書房
学会発表	教師・生徒関係が叱責場面における 動機づけに及ぼす影響について —自己決定理論の観点から—	中谷素之・赤羽 さつき・射場 淳・田中瑛津 子・田中康博	2007. 9.	日本教育心理学会 第 49 回総会発表 論文集
学会発表	児童の精神的回復力および自己愛が 学校適応に及ぼす影響 —短期縦断的データによる検討—	中谷 素之・小塩 真司・金子 一 史・中山留美子	2007. 9.	日本心理学会 第 71 回大会発表 論文集
シンポジウム	教師—生徒関係と動機づけ過程 —社会的文脈における学業達成(2)—	中谷素之・秋田 喜代美・速水敏 彦・西口利文・ 岡田涼・藤江康 彦	2007. 9	日本教育心理学会 第 49 回総会 自主シンポジウム
シンポジウム	わが国における自己調整学習の最前線	伊藤崇達・塚野 州一・中谷素 之・馬場久志・ 犬塚美輪・市原 学・瀬尾美紀子	2007. 9	日本教育心理学会 第 49 回総会 自主シンポジウム
雑誌原稿	教室で活かす動機づけの心理学 連載『心理学を教育実践に活かす』	中谷 素之	2007. 9	指導と評価 平成 19 年 7 月号 図書文化社
雑誌原稿	かかわりの中で育つ「学ぶ意欲」 —学校での人間関係を通して— 特集『がんばれない子の理解とかか わり方』	中谷 素之	2007. 9	児童心理 平成 19 年 9 月号 金子書房
雑誌原稿	教師に対する信頼感が内発的動機 づけを高める 特集『生徒を大人にする生徒指導』	中谷 素之	2007. 10	VIEW21 高校生版 平成 19 年 10 月号 ベネッセコーポレ ーション

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	20	%
社会貢献	10	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	人			
うち 社会人院生	1	人	留学生	1
博士後期課程	12	人		
うち 社会人院生	6	人	留学生	1
研究生	1	人		
学部生	8	人		
学位申請者	1	人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会活動	教育システム情報学会・関西支部	評議員	平成18年5月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・渉外活性化委員会	幹事	平成17年5月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・会員獲得戦略委員会	幹事	平成18年5月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・情報教育研究部会	委員	平成16年4月	継続中
学会活動	教育システム情報学会・第33回全国大会・大会企画委員会	委員	平成16年4月	継続中
学会活動	日本情報科教育学会・第1回全国大会	実行委員	平成19年5月	継続中
社会貢献	大阪府立三国丘高等学校三丘セミナー	講師	平成19年7月	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
サイバーメディア室	副室長	平成15年4月	継続中

担当授業科目
教育方法論(豊中・全学共通教育)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	フィンランドの ICT 教育とコミュニケーション	西端律子・岡本敏雄	平成 19 年 6 月	情報コミュニケーション学会誌
著書 (教科書)	高校 情報A	岡本敏雄編著 西端律子他8名	平成 19 年 4 月	実教出版
著書 (教科書)	新刊 情報A	岡本敏雄編著 西端律子他8名	平成 19 年 4 月	実教出版
著書 (教科書)	新刊 情報B	岡本敏雄編著 西端律子他8名	平成 19 年 4 月	実教出版
著書 (教科書)	新刊 情報C	岡本敏雄編著 西端律子他8名	平成 19 年 4 月	実教出版

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	10	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	7	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	1	人			
	17(共同指				
	導)				
学部生					
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本ユング心理学研究所	理事	2001.8.	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
対人関係の心理学
臨床心理学演習Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ
臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究
臨床教育学概論
教育臨床心理学Ⅱ(教職)
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理学特講Ⅱ
臨床心理基礎実習Ⅰ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ

臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ
臨床心理実習Ⅱ
臨床教育学フィールドワーク実習Ⅰ
臨床教育学フィールドワーク実習Ⅱ
臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅰ
臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ
臨床心理学特定演習Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
専門著書	現代のエスプリ483／ユング心理学の立場からみた心理教育	老松克博	2007.10.	至文堂
学術論文	東洋英和女学院大学心理相談室紀要11／攻撃的に受容すること	老松克博	2008.3.	東洋英和女学院大学 心理相談室
専門著書	Odyssey－遙かなる憧憬(栗州美会子著)／アクティヴ・イマジネーションとして『Odyssey』	老松克博	2008.3.	創元社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	5	人			
うち 社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人			
学部生	5	人			
学位申請者	1	人			

\*ただしD3の10人はゼミ制ではなく3人の教員の集団指導体制であった。

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
対人関係の心理学
子どもの現在
教育臨床心理学Ⅱ(専門科目)
教育臨床心理学演習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理基礎実習Ⅰ
臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理学特講Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ
臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ
臨床心理学特定演習Ⅱ
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ

臨床心理実習Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	実践的研究のすすめ第12章『臨床心理 面接法』	井村修	2007年 7月	有斐閣
論文	筋ジストロフィーの療養をめぐる臨床心 理学的援助の研究(2)	中田果林・井村修 ら9名	2007年 12月	大阪大学・心理教育 相談室

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	6	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	2	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	1	人				
学部生	5	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
心理教育相談室	副室長	2005.4.	
心理教育相談室運営委員会	委員	2005.4	
大学院入試運営委員会	委員	2006.4	
動物実験委員会委員会	委員	2006.4	
図書館委員会委員会	委員	2007.4	
附属図書館本館運営委員会委員会	委員	2007.4	
電子図書館委員会委員会	委員	2007.9	

担当授業科目
教育臨床心理学演習 I
臨床心理学 I
臨床教育学実験実習 I
臨床教育学実験実習 II
臨床教育学実験実習 III
臨床心理面接特講 I
臨床心理面接特講 II
臨床心理査定演習 I
臨床心理査定演習 II
臨床心理学特定演習 I
臨床心理学特定演習 II
臨床心理基礎実習 I

臨床心理基礎実習Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ
臨床心理実習Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ
臨床心理学特定研究Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ
臨床心理学特別演習Ⅱ
臨床心理学特別研究Ⅰ
臨床心理学特別研究Ⅱ
臨床心理学特講Ⅰ
基礎心理学
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	学校臨床のヒント	村山正治編 宮田敬一他	2007.5	金剛出版
学術論文	ブリーフセラピーに学ぶ	宮田敬一	2007.5	いまここ 6-11. 日本産業カウンセラ ー協会 東京支部
学術論文	心理療法入門 ブリーフセラピー	宮田敬一	2007.9.	臨床心理学, 17, 5, 627-630 金剛出版
論説	ジェイ・ヘイリー先生を偲ぶ	宮田敬一	2007.10	日本ブリーフサイコ セラピー学会 ブリーフサイコセラ ピー研究, 16,1-3.
論説	訃報・ヘイリー	宮田敬一	2007.12	日本家族研究・家族 療法学会 家族療法研究 24,3,273
学術論文	臨床心理学の展開 ブリーフセラピーの立場から	宮田敬一	2007.12	吉備国際大学臨床心 理相談研究所紀要、 4,55-67.
学術論文	カウンセリングから学ぶ 自己治癒力を引 き出す話の聴き方	宮田敬一	2008.3	医学書院 看護学雑誌、72、3、 204-209.
学術論文	ブリーフセラピーのコンサルテーションに関 する考察(2)	青木みのり・ 宮田敬一	2008.3	日本女子大学紀要 人間社会学部 第18 号 印刷中
訳書	インクルーシブセラピー	監訳 宮田敬一	2007.10	二瓶社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	25	%
社会貢献	25	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	25	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生
博士後期課程		人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生		人			
学部生		人			
学位申請者		人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
臨床教育学実験実習Ⅰ
臨床教育学実験実習Ⅱ
臨床教育学実験実習Ⅲ
臨床心理査定演習Ⅰ
臨床心理査定演習Ⅱ
教育臨床心理学

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「箱庭療法における認知-物語的アプローチの導入」	大前玲子	2007/8	心理臨床学研究第25巻 第3号
	「イメージ表現における認知-物語アプローチの導入」	大前玲子	2007/9	大阪大学大学院人間科学研究科博士学位論文
学会活動	自主シンポジウム「コラージュ療法と箱庭療法」話題提供者	大前玲子	2007/9	日本心理臨床学会第26 回大会
	「箱庭療法とコラージュ療法における認知-物語アプローチの導入」ワークショップ 事例発表者	大前玲子	2007/10	日本箱庭療法学会第21 回大会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	60	%
社会貢献	10	%
学内運営	0	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	0	人				
学位申請者	0	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
臨床心理学 I (学部)
臨床心理学特講 I (院)
臨床心理学特定研究 II (院・共同)
臨床心理学特別研究 II (院・共同)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	対人状況における対人不安の否定的な判断・解釈バイアスと自己注目との関連.	守谷順・佐々木淳・丹野義彦	2007.4	パーソナリティ研究, <b>15(2)</b> , 171-182
学会発表	The relation between schizotypy and creative activities.	Rumiko Miyoshi, Yoshihiko Tanno, and Jun Sasaki	2007.7	World Congress of Behavioural and Cognitive Therapies (Barcelona, Spain)
学術論文	女子学生の月経前症候群(PMS)傾向と認知的要因の時間的変動との関連について.	安元万佑子・佐々木淳・石垣琢磨	2007.7	ストレス科学, <b>22</b> , 70~77.
学会発表	臨床診断における利用者の立場からみたガイドライン.	佐々木淳	2007.8	日本テスト学会第5回大会・学会企画ワークショップ
学術論文	外傷後ストレス障害に効くといわれている EMDR とはどんな治療でしょうか?	佐々木淳	2007.9	こころの臨床 a・la・carte, <b>26(3)</b>
学会発表	統合失調型と創作活動の関連.	三吉留美子・丹野義彦・佐々木淳	2007.9	日本心理学会第71回大会
分担執筆	なぜ人は嫌われていると感じるのか? (他者を気にするところと行動: 人間関係の心理学入門.)	佐々木淳	印刷中	金子書房.
分担執筆	自己: 自我漏洩感から. (叢書・実証にもとづく臨床心理学: 臨床認知心理学.)	佐々木淳	印刷中	東京大学出版会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	15	%
社会貢献	5	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	1	人			
学部生	12	人	教員 2 人		
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	日本教育社会学会	理事	2003.10	2007.9
	社会調査士資格認定機構	理事	2003.10	未定

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
部局長会議	委員	2006.5	2008.4
教育研究評議会	委員	2006.5	2008.4
発明委員会, 他	委員	2006.5	2008.4

担当授業科目
教育動態学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
教育社会学特定演習Ⅰ
教育社会学特定演習Ⅱ
教育社会学特定研究Ⅰ
教育社会学特定研究Ⅱ
教育社会学特別演習Ⅰ
教育社会学特別演習Ⅱ
教育社会学特別研究Ⅰ
教育社会学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
科研報告書	「多重対応分析を用いた社会空間の構築」	近藤博之	2008.3	2005SSM 調査研究会
科研報告書	「社会空間アプローチによる階層と教育の分析」	近藤博之	2008.3	2005SSM 調査研究会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	40	%
社会貢献	5	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	12	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	府立 A 高校学校協議会	学校評議員	2005.4	
	茨木市教育研究所	顧問	2005.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
評価・広報室	オブザーバー	2004.5	
データ管理分析室運営委員会	データ管理分析室員	2004.5	

担当授業科目
教育社会学特定演習 I(院・共同)
教育社会学特定演習 II(院・共同)
教育社会学特別演習 I(院・共同)
教育社会学特別演習 II(院・共同)
教育社会学特定研究 I(院・共同)
教育社会学特定研究 II(院・共同)
教育社会学特別研究 I(院・共同)
教育社会学特別研究 II(院・共同)
教育と社会(学部)
教育社会学(学部)
教育社会学特講(院)
教育社会学演習 II(学部)
教育環境学実験実習 I(学部・共同)
教育環境学実験実習 II(学部・共同)
教育環境学実験実習 III(学部・共同)
教育環境学概論(学部・共同)

教育環境学(教職)
人間科学概論 III(学部・共同)
人間科学のフロンティア(学部・共同)
人間科学方法演習(院・共同)
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	進路希望の一貫性と非一貫性	中村高康・藤原 翔・岩田考	2007.9	日本教育社会学会第 59回大会
学術論文	高等教育研究と社会学的想像力—高等 教育社会学における理論と方法の今日 的課題—	中村高康	2007.5	日本高等教育学会編 『高等教育研究』第 10集、97-109頁
著書	混合研究法—mixed methods research—	中村高康	2007.7	小泉潤二・志水宏吉 編『実践的研究のす すめ 人間科学のリ アリティ』有斐閣、 233-247頁。
学術論文	進路希望の構造と変容	藤原翔・中村高 康・岩田考	2008.3 予定	『桃山学院大学社会 学論集』第41巻2号
報告書	2005年SSM調査シリーズ6 階層社会 の中の教育現象	中村高康編	2008.3	2005年SSM調査研 究会
会議報告	高校生の進路と第三段階教育	中村高康	2007.5	日本高等教育学会第 10回大会課題研究

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	15	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	5	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	25	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	吹田市	社会教育委員(副座長)	2004.3	
	大阪市	視聴覚映画選定委員会(委員長)	2004.4	
	大阪府	中高一貫教育推進会議(座長)	2006.4	
	学術振興会	科学研究費審査委員	2006.1	2007.12

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
教育実習等専門部会	部会長	2004.4		
教育課程委員会	委員	2006.4		
教務委員会	委員長	2006.4		

担当授業科目
教育制度学(学部)
教育制度学演習Ⅰ(学部)
教育制度学演習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅰ(学部)
教育環境学実験実習Ⅱ(学部)
教育環境学実験実習Ⅲ(学部)
卒業演習(学部)
卒業研究(学部)
学校経営論特講(大学院)
教育制度学特定演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特定演習Ⅱ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅰ(大学院)
教育制度学特別演習Ⅱ(大学院)

教育制度学特別研究Ⅰ(大学院)
教育制度学特別研究Ⅱ(大学院)
教育制度学特定研究Ⅰ(大学院)
教育制度学特定研究Ⅱ(大学院)
教育環境学概論(共通教育)※分担
基礎セミナー(子どもの現在)(共通教育)※分担
教育実習(教職科目)
教育実習・事前指導および事後指導(教職科目)
総合演習(教職科目)

#### 【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
論文	学校・教職員と保護者・地域住民の 関係性と距離感の変化—学校への無理 難題要求(イチャモン)急増の意味する もの—	小野田正利	2008. 3.	『日本教育法学会年 報』第37号(有斐閣)
論文(シリー ズ)	悲鳴をあげる学校 (第1 3回～2 4回)	小野田正利	2007. 4 ～ 2008. 3	『月刊高校教育』 学事出版 毎月6頁分掲載
論文	学校が見据えるべき保護者の思いとホ ンネ	小野田正利	2007. 6	『悠プラス』(ぎょうせ い)
著書	子どものために手をつなぐ3 ～学校へのイチャモン(無理難題要 求)のウラにあるもの	小野田正利	2008. 1.	大阪大学・人間科学 研究科・教育制度学 研究室 40p.
著書(共著)	教育小六法 2008(平成20年版)	市川・浦野 小野田・窪田 中嶋・成嶋	2008. 3.	学陽書房
論文	子どもに立ちかえって一緒に考える～ 学校への無理難題要求をチャンスに	小野田正利	2007. 9	『学校運営』(全国公 立学校教頭会) pp.6-11.
論文	追い詰める親、追い詰められる学校	小野田正利	2007. 12	『中央公論』第1484 号(中央公論新社) pp. 32-39
論文	論点5 7 学校への苦情がなぜ増え たか	小野田正利	2007. 11	『日本の論点2008』 (文藝春秋) pp. 514-517
論文	保護者の意識の変化をとらえる—反 発を生まない教師や学校の対応	小野田正利	2007. 6	『児童心理』第860 号(金子書房) pp. 40-44
論文	学校に対する無理難題要求の急増— 社会問題として	小野田正利	2008. 2	『教育と医学』第 656号(慶應義塾大 学出版会) pp. 4-12
課題研究総 括	「教育改革」に揺れる学校現場	小野田正利	2007. 6	日本教育経営学会 『日本教育経営学 会紀要』第49号

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	13	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生					
学部生	4	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
審議会	大阪府人権施策推進審議会	委員	1999.5	
審議会	大阪府同和問題解決推進審議会	委員	2005.4	
審議会	奈良県人権施策協議会	副座長	1998.4	
推進委員会	茨木市生涯学習推進委員会	委員	2007.4	
運営委員会	箕面市萱野人権文化センター運営委員会	会長	1997.4	
推進委員会	東淀川人権教育総合推進委員会	アドバイザー	1995.4	
研究所	部落解放・人権研究所	理事	2005.7	
研究センター	世界人権問題研究センター	人権教育班リーダー	2006.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人権問題委員会	委員	2005.4	

担当授業科目
人権教育学
生涯教育学
人権教育学特講
生涯教育学特講
教育環境学実験実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ
人権教育学演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特定演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特定研究Ⅰ、Ⅱ
生涯教育学特別研究Ⅰ、Ⅱ
教育環境学概論
卒業演習、卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	『部落解放(No.582 増刊号)』「人権教育の指導方法等の在り方について[第二次とりまとめ]」	平沢安政	2007.5	解放出版社
啓発冊子	『ローカルを通じてグローバルを グローバルを通じてローカルを』	平沢安政(監修)	2007.5	大阪市市民局
書評	『教育社会学研究—第80集』「持続可能な教育社会をつくる」	平沢安政	2007.6	東洋館出版社
学術論文	『兵庫教育』「豊かな人権文化を育む教育のあり方」	平沢安政	2007.11	兵庫県教育委員会
翻訳	『デマンドに応える学校—教育の社会的な需要と供給』	平沢安政	2007.11	明石書店
学術論文	『おとなの学び』「おとなが変わる契機とは」	平沢安政	2008.3	解放出版社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	12	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	6	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	理事	2007.10.	2009.9.
学会	日本教育社会学会	研究委員会委員	2007.10.	2009.9.
学会	日本女性学会	幹事	2006.6.	2008.6.
審議会	大阪府男女共同参画審議会	委員	2006.4.	2008.3.
審議会	大阪男女共同参画活動事業審査委員会	委員	2007.7.	2008.3.
審議会	吹田市男女共同参画審議会	副会長	2006.4.	2008.3.
審議会	豊中市男女共同参画審議会	委員	2006.4.	2008.3.
研究所	大阪府立大学女性学研究センター	学外研究員	2007.4.	2008.3.

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
紀要編集委員会(部内)	委員	2007.4.	2008.3.
財務会計委員会(部内)	委員	2007.4.	2008.3.

担当授業科目
現代社会を読み解く
人間科学概論Ⅲ
教育環境学概論
教育環境学(教職科目)
ジェンダー教育学
生涯教育学演習Ⅰ
生涯教育学演習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅰ
教育環境学実験実習Ⅱ
教育環境学実験実習Ⅲ
生涯教育学特定演習Ⅰ(前期課程)
生涯教育学特定演習Ⅱ(前期課程)
生涯教育学特定研究Ⅰ
生涯教育学特定研究Ⅱ
生涯教育学特別演習Ⅰ(後期課程)
生涯教育学特別演習Ⅱ(後期課程)
生涯教育学特別研究Ⅰ
生涯教育学特別研究Ⅱ
卒業演習
卒業研究

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(共編)	『フェミニスト・ポリティクスの新展開－労働・ケア・グローバリゼーション』	足立・伊田・木村・熊安	2007.9.	明石書店
著書(分担)	「インタビュー法」(『実践的研究のすすめ』)	木村涼子	2007.7.	有斐閣
学術論文	「フェミニズムの観点から教育と『暴力』を考える」(『女性学』vol.14)	木村涼子	2007.4.	日本女性学会
評論	「教育基本法「改正」をジェンダーの視点で読む」(『ヒューマンライツ』no.229)	木村涼子	2007.4.	部落解放・人権研究所

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	8	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生					
学部生	3	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	大阪府立吹田養護学校	学校協議会委員	2007.4	2008.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
総合演習(教職科目)
道徳・同和教育論(教職科目)
教育環境学概論
教育環境学実験実習Ⅱ・Ⅲ
生涯教育学演習Ⅰ・Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
論文	「高齢者の社会参加活動と生涯学習活動の関連に関する一考察—大阪府老人大学修了者を事例として」『大阪教育大学紀要 第IV部門 教育科学』第56巻1号、pp.101-112。	堀薫夫・福嶋順	2007.9	大阪教育大学
論文	「社会教育における市民的公共性をめぐる論点と課題」日本社会教育学会編『NPOと社会教育』pp.115-126	福嶋順	2007.9	東洋館出版社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	9	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	8	人			
うち	社会人院生	3	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	24	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本教育社会学会	理事・研究委員会委員長	2007.9	
学会	日本カリキュラム学会	理事	2007.6	
学会	Race Ethnicity & Education 誌	海外編集委員	1999.9	
学会	日本教育学会	全国理事	2007.9	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	
教職課程委員会		2004.4		

担当授業科目
教育環境学概論
教育計画学 I
教育計画学 II
教育計画学演習 I
教育計画学演習 II
教育環境学実験実習 I
教育環境学実験実習 II
教育環境学実験実習 III
卒業演習
卒業研究
教育文化学特講
教育学特別講義 II
教育文化学特定演習 II
教育文化学特定演習
教育文化学特講

学校社会学特講
教育文化学特定演習Ⅰ
教育文化学特定演習Ⅱ
教育文化学特定研究Ⅰ
教育文化学特定研究Ⅱ
教育学特別講義Ⅱ
教育文化学特別演習Ⅰ
教育文化学特別演習Ⅱ
教育文化学特別研究Ⅰ
教育文化学特別研究Ⅱ

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書	実践的研究のすすめ	小泉順二・志水宏 吉	2007年 3月	有斐閣
著書	高校を生きるニューカマー	志水宏吉	近刊	明石書店
論文	教育資本について	志水宏吉	2007年 3月	大阪大学教育文化学 研究室『教育文化学 年報』

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	20	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育学系大学院担当		2007.4	2008.3

担当授業科目
教育環境学(全学共通教育科目)
総合演習(補佐:全学共通教育科目)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	8	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	3
博士後期課程	4	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	1
研究生	1	人			
学部生	5	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	国際ボランティア学会	会長	2007. 4	2008. 3
客員教授	お茶の水女子大学	客員教授	2007. 4	2008. 3
非常勤講師	津田塾大学	非常勤講師	2007. 4	2007. 9

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
財務委員会	委員	2007. 4	2008. 3
グローバルコラボレーションセンター	兼任教員	2007. 10	2008. 3

担当授業科目
国際協力論特講
国際人間開発論特講
ボランティア人間科学演習
ボランティア人間科学実験実習
ボランティア論(共通科目)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「ポストコンフリクト緊急教育支援のためのディスコース」	内海成治	2007. 10	『国際開発研究』第16巻第2号 63-76
学術論文	「アフガニスタンの現在」	内海成治	2007. 5	『歴史地理教育』2007年5月号通巻714号 80-85
科研報告書	『難民および紛争後の国への国際教育協力の動向と課題』	内海成治	2008. 3	平成17年度—19年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書
著書	「開発途上国の教育を考える」	内海成治	2007	小泉・志水編『実践的研究のすめ—人間科学のリアリティ』有斐閣 東京 267-269

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	40	%
社会貢献	15	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

(すべて2名の教員が指導)

博士前期課程	15	人			
うち	社会人院生	3	人	留学生	6
博士後期課程	23	人			
うち	社会人院生	11	人	留学生	4
研究生	1	人			
学部生	18	人			
学位申請者	4	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
委員会等	国際協力機構(JICA)・国別特設研修ブラジル 出産時ケア運営委員会	運営委員長	2002年4月	現在
委員会等	JICA・ラオス子ども健康プロジェクト	国内委員	2005年4月	現在
委員会等	JICA・アフガニスタン国保健医療セクタープロ グラム評価検討委員会	委員	2006年10月	現在
委員会等	JICA・救急大災害医療セミナー運営委員会	運営委員	2002年4月	現在
委員会等	エイズ予防財団・エイズ対策研究推進事業運営 委員会	運営委員	2005年4月	現在
NGO 活動	ジャパン・プラットフォーム	副代表理事	2003年4月	現在
学会	日本国際保健医療学会	評議員	2003年4月	現在
学会	学会誌「国際保健医療」	編集委員長	2003年4月	現在
学会	日本子どもの虐待防止学会・国際活動委員会	副委員長	2005年4月	現在
NGO 活動	特定非営利活動法人 Health and Development Services (HANDS)	代表理事	2001年4月	現在

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
海外教育研究拠点運営委員会	委員	2005.4.1.	

担当授業科目
特別講義Ⅱ（医学系研究科保健学専攻）
国際保健開発論特論(人間科学研究科)
国際保健開発論特講(人間科学研究科)
環境保全論(人間科学部)
多文化共生論(人間科学部)
多文化共生学特講(人間科学研究科)
国際社会活動論特講(人間科学研究科)
国際保健学特講(人間科学研究科)
ボランティア人間科学演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅰ
ボランティア人間科学実験演習Ⅱ
ボランティア人間科学実験演習Ⅲ
卒業演習
卒業研究
国際協力論特定演習Ⅰ
国際協力論特定演習Ⅱ
国際協力論特定研究Ⅰ
国際協力論特定研究Ⅱ

#### 【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
原著	西マレーシア北部における伝統医療と近代医療に対するマレー系住民の意識	藤井まい, サロニ・アブドゥル・ラニ, 中村安秀.	2007.6	民族衛生, 2007; 73(2): 52-59
原著	Increased utilization of maternal health services by mothers using the Maternal and Child Health Handbook in Indonesia	Kusumayati A, Nakamura Y.	2007.10	Journal of International Health, 2007; 22(3): 143-151
解説・総説	世界に広がる母子健康手帳	中村安秀	2007.8	生産と技術, 2007; 59(2): 87-90
著書	研究を位置づける—倫理とリスク管理	中村安秀	2007.7	実践的研究のすすめ—人間科学のリアリティ. Pp. 33-44、有斐閣, 東京
著書	世界に広がる母子手帳	中村安秀	2007.7	子ども白書 2007(日本子どもを守る会編集). 草土文化, 東京
著書	海外母子保健マニュアル	中村安秀	2007.4	母子衛生研究会, 東京
著書	NGO フィールドスタッフのための健康・安全対策ハンドブック	中村安秀	2007.12	外務省、特定非営利活動法人 HANDS, 東京

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
NPO	こうべ子どもにこにこ会	学習補助ボランティア	2006	
教育協議会	兵庫県在日外国人研究協議会	サポーター	2004	
学会	日本比較教育学会	関西地区 理事	2004	
学会	国際ボランティア学会	事務局	2004	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
共訳	ジークリット・ルヒテンベルク編『移民・教育・社会変動—ヨーロッパとオーストラリアの移民問題と教育政策—』(2章 翻訳) Ludger Pries(2004) Transnationalism and Migration: New Challenge for the Science and Education	乾 美紀 (山内乾史監訳)	2008,01	明石書店
論文	2007「インドシナ難民定住者の高校へのアクセスに関する研究—ニューカマー進学・学習支援の日米比較調査より—」 pp.39-44『人間環境学研究』5号1巻	乾美紀	2007,06	人間環境学研究会

グローバル人間学系 草郷 孝好

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	50	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人				
うち	社会人院生		0	人	留学生	0
研究生	0	人				
学部生	6	人				
学位申請者	3	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	特定非営利活動法人開発と未来工房	理事	2005.3	
	財団法人とよなか国際交流協会	評議員	2007.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
人間科学プロジェクト特講Ⅰ
人間科学プロジェクト特講Ⅱ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
研究報告	「第4章第2節地域コミュニティの持続的発展指標の形成と実際」『地域の「創造力」向上を目指した再生のあり方』	草郷孝好	2007.6	NIRA助成研究報告書 0751
著書(共著)	Gross National Happiness and Material Welfare in Bhutan and Japan	Tashi Choden, Kusago, Takayoshi, Kokoro Shirai	2007.11	Centre for Bhutan Studies
著書(共著)	「アクション・リサーチ」小泉潤二・志水宏吉編 『実践的研究のすすめ』	草郷孝好	2007.7	有斐閣
著書(共著)	「第III部特別寄稿第1章 21世紀の豊かな共生社会の担い手づくり」『総合学科の挑戦』	草郷孝好	2006.12	学事出版
雑誌記事	「フィールド調査余話」『経友』	草郷孝好	2008.2	東京大学経友会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	20	%
社会貢献	30	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生			人	留学生 1 人
博士後期課程	5	人			
うち	社会人院生		1	人	留学生 1 人
研究生					人
学部生					人
学位申請者					人

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	JICA国際協力総合研修所	調査研究懇談会委員	継続	
	JICA	タンザニア国地方開発セクタープログラム策定支援調査国内支援委員	継続	
	JICA国際協力総合研修所	『国際協力研究』外部審査委員	継続	

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月
高度教養教育推進ワーキング		委員	19年9月	継続
SDオンサイト研究センター運営委員会		委員	19年10月	継続

担当授業科目
世界は今
紛争復興開発論特定研究 I
紛争復興開発論特別研究 I
国際社会開発論
地域経済論
紛争復興開発論特講 I
紛争復興開発論特定演習 I
紛争復興開発論特別演習 I
現代社会学特別演習 I
現代社会学特別演習 II
現代社会学特定演習 I
現代社会学特定演習 II

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	“Downside Risks and Human Security.” In Giorgio Shani, Makoto Sato and Mustapha Kamal Pasha eds., <i>Protecting Human Security in a Post 9/11 World: Critical and Global Insights</i> , Basingstoke: Palgrave Macmillan.	Yoichi Mine	2007年 12月	Palgrave Macmillan
書評	“W. Arthur Lewis and the Birth of <i>Development Economics</i> by Robert L. Tignor.” <i>The Developing Economies</i> , Vol. 45, No. 2	Yoichi Mine	2007年 6月	Blackwell

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	15	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	4	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	1
博士後期課程		人			
うち	社会人院生		人	留学生	
研究生		人			
学部生	30	人			
学位申請者		人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
NPO	菜の花プロジェクトみのお	代表	2005.8	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科 大学院入試運営委員会	委員	2007.10	
大阪大学 入試委員会	委員	2008.3	

担当授業科目
開発・環境原論2(開発・環境前期科目)
開発・環境演習 I a,b(開発・環境後期科目)
開発・環境実習 I a,b(開発・環境後期科目)
開発・環境野外実習 I (開発・環境後期科目)
地域環境論 I a,b(開発・環境後期科目)
地球開発論(総合科目)
農村開発論 a,b(大学院言語社会研究科)
農村開発論 a,b(大学院言語社会研究科・夜間)
フィールドワーク論(大学院言語社会研究科)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
開発・環境基礎ゼミ 1b
人間開発論 I b
開発・環境学特論VIII
スポーツ方法学 1b

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(分担)	ライフストーリーでつづる国際ボランティアの歩き方	久保田賢一	2007	国際協力出版会
学術論文	青少年を対象とした「平和構築のための教育」ーボスニア・ヘルツェゴビナにおける民族融和への取組みの検証ー	岡田千あき	印刷中	大阪外国語大学「開発と環境」第7号

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	30	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	25	人			
学位申請者	6	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	創発フォーラム(東京大学東洋文化研究所委託研究)	協力者	2007. 4	
その他	ボセス・デル・スール(ラテンアメリカ音楽演奏グループ)	代表	2000. 4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
(大阪外国語大学)評価室	室員	2006. 4	2007. 9
(大阪外国語大学)教育推進室	室員	2006. 4	2007. 9
(大阪大学人間科学研究科)評価室	室員	2007. 10	
(大阪大学人間科学研究科)サイバーメディア室	室員	2007. 10	

担当授業科目
スペイン語Ⅱa
スペイン語Ⅱb
イスマノアメリカ歴史文化概論 a
イスマノアメリカ歴史文化概論 b
イスマノアメリカ歴史文化論 a
イスマノアメリカ歴史文化論 b
H19年度イスマノアメリカ歴史・文化研究Ⅱa(昼間主)
H19年度イスマノアメリカ歴史・文化研究Ⅱb(昼間主)
H19年度イスマノアメリカ歴史・文化研究Ⅱa(夜間主)
H19年度イスマノアメリカ歴史・文化研究Ⅱb(夜間主)
ラテンアメリカ文化研究Ⅰa
ラテンアメリカ文化研究Ⅰb

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	支配文化を駆使し民族復権をはかる「大地の民」<チリのマプーチェ>	千葉泉	2007. 9	明石書店(アンダーソン、生田他、『トラウマ的記憶の社会史—抑圧の歴史を生きる民衆の物語り—』所収)、38-51頁
学術論文	植民地時代チリにおける先住民装束の変容(1)—「マクン」と「イクージャ」—	千葉泉	2007. 9	大阪外国語大学スペイン・イスタノアメリカ研究室(Estudios Hispánicos, 32号、93-114頁)
報告書	チリの先住民社会における色彩のシンボリズム—植民地時代初中期を中心に—	千葉泉	2007. 3	文部科学省科学研究費「着衣する身体」(代表:武田佐知子)
市民講座	チリのマプーチェ: 支配的文化を駆使した民族復権の試み	千葉泉	2007. 6	国際交流基金、『中南米・中東・アジア異文化理解講座』(2007年度第1期)
公開講座	音楽とスポーツを通じた国際協力	千葉泉、岡田千あき	2007. 12	大阪大学人間科学部・公開講座「ボランティア人間科学の発展をめざして—グローバルな視点から—」、2007年度第4講
会議報告	中南米民衆音楽に見る脱植民地化	千葉泉	2007. 6	国際高等研究所研究プロジェクト「高度科学技術に伴う広域・学際的諸課題—複雑系科学の再出発~呪縛なき共生創発社会への道~—」、2007年度第1回研究会
会議報告	自分らしさを中心に据える—私が南米の歌をうたう理由—	千葉泉	2007. 12	創発フォーラム研究会(於大日本印刷)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	30	%
社会貢献	15	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
博士後期課程	1	人			
うち	社会人院生	1	人	留学生	0
研究生					
学部生	10	人			
学位申請者	5	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
研究組織	アジア現代女性史研究会	代表	2004. 4	
独立行政法人	大学入試センター	教化科目第一委員会委員	2006.4	2008.3

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人権問題調査委員会	委員	2007.9	2007.11
セクシュアル・ハラスメント防止・対策委員会	委員	2008.10	

担当授業科目
女性学
日本文化史演習Ⅱ
アジア現代女性史
現代女性史研究1
現代女性史研究2
アジア現代女性史特別研究1
アジア現代女性史特別研究2

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	日本のフェミニズムと性売買問題 — 軍事主義と売春禁止主義の結 合	藤目ゆき	2007.6	「女性・戦争・人権」学 会編『女性・戦争・人権』 第8号、行路社
学術論文	일본의 매춘방지법과 성노동 (日本の売春防止法と 性労働)	藤目ゆき	2007.10	女性文化理論研究所性労 働研究チーム編集発行 『성노동 (『性労働』)』
学術論文	「9・11」以降のフェミニズムと女 性史研究 — ブッシュ政権の「人身 売買との戦い」という問題を中心に	藤目ゆき	2007.12	二十世紀研究編集委員会 編集発行『二十世紀研究』 第8号
学術論文	基地の街、岩国の女性史	藤目ゆき	2008.3	アジア現代女性史研究会 編集発行『アジア現代女 性史』第4号
監修	アジア現代女性史Ⅲ フェミニストが語るタイ現代史— 一〇・一四事件と私の闘い	スニー・チャイ ヤロット著、増 田真訳	2007.7	明石書店
監修	アジア現代女性史Ⅳ 女たちのビルマ — 軍事政権下を 生きるビルマの女たちの声	タナッカーの会 編、富田あかり 訳	2007.12	明石書店
監修	アジア現代女性史Ⅴ 朝鮮の南北分断と離散家族	金貴玉著、永谷 ゆき子訳	2008.2	明石書店
監修	アジア現代女性史Ⅵ 憤れる白い鳩 20世紀台湾を生き て — 六人の女性のオーラルヒス トリー』	周芬伶著、馮守 娥監訳	2008.2	明石書店
編著	『アジア現代女性史』第4号	アジア現代女性 史研究会	2008.3	アジア現代女性史研究会
編著	The Studies of Contemporary Asian Women's history and Gender, no.4	Association for the Study of Contemporary Asian Women's History and Gender	2008.3	Association for the Study of Contemporary Asian Women's History and Gender

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生	2	人	留学生	1
博士後期課程		人			
うち	社会人院生		人	留学生	
研究生		人			
学部生	65	人			
学位申請者		人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本社会学会			
学会	環境社会学会			
学会	社会文化学会	運営委員・編集委員長	2006.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
旧大阪外国語大学 学務委員会	委員	2007.4	2007.9

担当授業科目
(大学院博士前期課程)現代社会学研究 1
(大学院博士前期課程)現代社会学研究 2
(学部専攻前期科目)開発・環境基礎ゼミ b
(学部専攻後期科目)社会環境論 I a
(学部専攻後期科目)社会環境論 I b
(学部専攻後期科目)開発・環境論 II a
(学部専攻後期科目)開発・環境演習 I a
(学部専攻後期科目)開発・環境演習 I b
(学部専攻後期科目)開発・環境実習 II a
(学部専攻後期科目)開発・環境実習 II b
(学部専攻後期科目)開発・環境野外実習 II
修論・卒論研究指導

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
口頭発表	岐阜県大垣市における日系ブラジル 人の教育問題	小林清治	2007.12	社会文化学会第 10 回全国大会
その他	2007 年度岐阜県大垣市における外国 人児童生徒の教育支援調査報告書	小林清治他	2008.4 (予定)	小林清治研究室

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	35	%
教育	35	%
社会貢献	5	%
学内運営	25	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____	人	留学生	_____	人
博士後期課程	うち	社会人院生	1	人	留学生	_____	人
研究生				人			
学部生			65	人			
学位申請者				人			

※卒論・実習指導＋アカデミックアドバイザー

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学 会	日本食品化学工学会	会 員・論文査読委員	1991 年	
学 会	応用糖質学会	会 員	1992 年	
学 会	高分子学会	会 員	1993 年	
学 会	日本レオロジー学会	会 員	1994 年	
学 会	日本環境教育学会	会 員	2000 年	
学 会	日本環境化学学会	会 員	2000 年	
学 会	American Association of Cereal Chemists (AACC)	会 員	2001 年	
研究会	食品ハイドロコロイド研究会	会 員	1997 年	
研究会	関西大学先端科学技術推進機構不凍タンパク質応用研究会	委 員・アドバイザー	2003 年	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
旧大阪外国語大学 学務委員会	委員長	2006.4	2007.9
旧大阪外国語大学 人権倫理委員会	委 員	2006.4	2007.9

担当授業科目	
(大学院博士後期課程)	生活環境特別研究1
(大学院博士後期課程)	生活環境特別研究2
(大学院博士前期課程)	生活環境研究1
(大学院博士前期課程)	生活環境研究2
(学部専攻前期科目)	基礎ゼミ a
(学部専攻後期科目)	生活環境論 Ia
(学部専攻後期科目)	生活環境論 Ib
(学部専攻後期科目)	開発・環境論 IIb
(学部専攻後期科目)	開発・環境実習 IVa
(学部専攻後期科目)	開発・環境実習 IVb
(学部専攻後期科目)	開発・環境野外実習 IV
(学部専攻総合科目)	物質の科学 a
(学部専攻総合科目)	物質の科学 b
博論・卒論研究指導	

#### 【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(共著)	「アスベスト災害とリスクコミュニケーション-ステークホルダーの対立とコミュニケーションによる緩和のプロセス-」松野明久 編『トラウマ的記憶の社会史-抑圧の歴史を生きる民衆の物語-』(p.p. 151-174)	三好 恵真子	2007.9	明石書院
著書(共著)	「中国の経済発展に潜むアスベスト災害-予防原則からの視座」西村成雄・許衛東 編『現代中国の社会変容と国際関係』(p.p. 223-240)	三好 恵真子	2008.3	汲古書院
著書(単著)	『忘れてはならない環境ホルモンの恐怖-子どもたちの未来を守るために-』(p.175) (第二刷)	三好 恵真子	2007.10 (第一刷 2003.11)	大学教育出版
著書(単著)	『“エコ祭り”僕たちにだって出来るね!-身近な生活から環境問題を考える読み物3-』(p.80) (第二刷)	三好 恵真子	2007.4 (第一刷 2004.12)	三恵社
学術論文	「アスベスト災害とリスクコミュニケーション-負の遺産から学ぶべき今後の課題-(前編)」(Vol.49, No.6, p.p.29-49)	三好 恵真子	2007.6	New Food Industry
学術論文	「アスベスト災害とリスクコミュニケーション-負の遺産から学ぶべき今後の課題-(後編)」(Vol.49, No.7, p.p.41-30)	三好 恵真子	2007.7	New Food Industry
学術論文	<i>Different Effects of Monosaccharides and Disaccharides on the Sol-Gel Transition in Gellan Gum Aqueous Solutions</i> (Vol. 7, p.p.31-43)	Miyoshi,E.	2008.3	<i>Development and Environment</i>
学術論文	「グローバル経済システムがもたらす中国のアスベスト問題-グローバル化する中国の環境問題をどう捉えるべきか-」(Vol.50, No.6, p.p.1-15)	三好 恵真子	2008.6	New Food Industry

科研費 成果報告書	平成 17～19 年度基盤研究(C)成果報告書『生物資源(主として不凍タンパク質)の機能性発現とその応用開発に向けた基礎的研究』(印刷中)	三好 恵真子	2008.5	科学研究費補助金「基盤研究(c)」研究成果最終報告書(研究代表:三好恵真子)
プロジェクト 成果報告書	「アスベスト災害とリスクコミュニケーション」『トラウマ的記憶の社会史 II プロジェクト報告書』(p.p.43-61)	三好 恵真子	2007.3	平成 18 年度大阪外国語大学特別研究費 II プロジェクト成果報告書
科研プロジェクト 関連論文	「現代女性の身体の理想像に関する一考察」(web 掲載論文)	三好 恵真子 他	2007.3	科学研究費「基盤研究(A)」『着衣する身体と女性の周縁化』(研究代表:武田佐知子)プロジェクト報告
プロジェクト 成果報告書	「未利用廃棄物由来の不凍タンパク質の機能性発現とその応用開発に向けた研究」	三好 恵真子	2007.9	平成 19 年度大阪外国語大学特別研究費 I プロジェクト成果報告書
学会討論会 発表論文	「多糖類のレオロジー的・熱的性質に及ぼす不凍タンパク質添加の影響」	三好恵真子, 河原秀久, 小幡斉	2007.11	第 55 回レオロジー討論会発表論文集

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	45	%
教育	30	%
社会貢献	10	%
学内運営	15	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程		人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生		人			
学部生	25	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	地域研究コンソーシアム	理事・運営委員	2005・4	2008・3
	大学問題研究所(ペルー)	国際委員	2007・4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
人間科学研究科運営委員会	運営委員	2007・10	
論文博士学位論文受理検討委員会		2007・10	
第3年次編入学試験運営委員会		2007・10	

担当授業科目
欧米文化を知る[全学共通科目](学部)
地域動態論特講(M)
地域動態論特定演習(M)
ラテンアメリカ歴史文化特別演習(外国語学部)
ラテンアメリカ史特殊研究(言語文化研究科言語社会専攻)
ラテンアメリカ歴史文化特殊講義(外国語学部)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	植民地言説に対するアンデス先住民遊 民の異議申し立て	染田秀藤	2007・9	明石書房
学術論文	クロニスタにみる「インカ帝国」言説とロ ーマ理念	染田秀藤	2008・3	世界思想社
評論	Las Casas y Guaman Poma...	Someda Hidefujii	2007・11	ペルー国立図書館

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	0	人			
学部生	25	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本タイ学会	理事	2000.7.1	2007.6.30
学会	日本タイ学会	事務局長	2000.7.1	2007.6.30

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
環境施設整備室(外大)	室員	2006.4.1	2007.9.30
入学試験委員会(外大)	委員	2006.4.1	2007.9.30
施設マネジメント委員会(人科)	委員	2007.10.1	
人事委員会(人科)	委員	2007.10.1	

担当授業科目
タイ語2
タイ語8
タイ語IVa
タイ語IVb
タイ文化演習 I a
タイ文化演習 I b
東南アジア社会研究 I a
東南アジア社会研究 I b
タイ政治社会研究a
タイ政治社会研究b
卒業論文

**【5】2007(平成19)年度 著書・論文**

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	「タイにおける医療構造改革と 30 パーツ医療制度」『アジア太平洋論叢』	河森正人	2007 年9月	アジア太平洋研究会
学会報告	「タイにおける医療構造改革と国民皆保険制度」	河森正人	2007 年7月	日本タイ学会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	50	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人			
うち	社会人院生		0	人	留学生 0 人
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生	0	人			
学部生	15	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	東欧史研究会	委員(編集)	2005.4	2008.3
学術組織	地域研究コンソーシアム	運営委員	2006.4	2008.3
その他	大阪外国語大学生生活共同組合	理事	2003.5	2008.2

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
教育推進室(大阪外国語大学)	室員	2005.4	2007.9
言語社会研究科博士前期課程入試委員会(大阪外国語大学)	委員	2006.4	2007.9
民族紛争の背景に関する地政学的研究運営委員会(大阪外国語大学)	運営委員	2007.4	2007.9
箕面地区事業場安全衛生委員会	委員	2007.11	2008.3

担当授業科目
ハンガリー研究入門 2a
ハンガリー研究入門 2b
ハンガリー語 1a
ハンガリー語 1b
ハンガリー文化演習 1a
ハンガリー文化演習 1b
ハンガリー文化研究 1a
ハンガリー文化研究 1b
ハンガリー文学研究 a
ハンガリー文学研究 b
ハンガリー史研究 1
ハンガリー史研究 2
歴史方法論講義 (歴史学のフロンティア)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	3	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
博士後期課程	1	人				
うち	社会人院生	0	人	留学生	0	人
研究生	0	人				
学部生	20	人				
学位申請者	(修士) 2	人				

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本現代中国学会	理事長	2006年10月	在任
学会	アジア政経学会	評議員	2005年10月	2007年10月
学会	環日本海学会	理事	2006年12月	在任
学会	近現代東北アジア地域史研究会	世話人代表	1997年12月	在任
客員	中国・南京大学歴史学系	客座教授	1993年9月	在任
編集	中国・南京大学中華民国研究センター『民国研究』	海外編集者	1993年9月	在任
共同研究	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	共同研究員	2007年4月	在任
共同研究	日中米共同歴史研究	日本組織委員	2005年11月	在任
学外講義	JICA 研修所(大阪)	非常勤講師	1997年9月	在任
学外講義	関西大学法学部	非常勤講師	2007年4月	2008年3月
学外講義	立命館大学法学部	非常勤講師	2007年4月	2007年9月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
中国語9 (中国政治文献講読)
中国政治特殊研究
中国政治・経済講義
東アジア言語社会研究序説
中国社会史研究
中国地域政治史研究

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
共編著	中華民国の制度変容と東アジア地域秩序	西村成雄 田中仁	2008年3月	汲古書院
共編著	現代中国の社会変容と国際関係	西村成雄 許衛東	2008年3月	汲古書院
学術論文	中国民族主義與戦後東北地区政治建構	西村成雄	2007年5月	『中国現代史』 (北京)(復印報 刊資料)pp63-75
学術論文	1930年代前半期東北人 「流亡ナショナリズム」の形成	西村成雄	2007年6月	『近きに在りて』 第51号 pp59-68
国際会議報告	国民政府接收東北時現場的政治矛盾	西村成雄	2007年8月	中国社会科学院 近代史研究所 (北京)『1940年 代的中国』国際 シンポジウム
国際会議報告	中原大戦後、東北華北政治空間的新段階	西村成雄	2007年8月	中国・南開大学 他(天津)『現代 中国社会変容與 東亜新格局』 国際学術 フォーラム
報告	20世紀中国の国民国家的凝集力	西村成雄	2008年2月	立命館大学国際 地域研究所 『現代中国の歴 史的位相』 シンポジウム
報告	The Historical Path-dependency in Contemporary East Asia and Chinese Diplomacy	NISHIMURA Shigeo	2008年3月	大阪大学・グロ ーニンゲン大学 ワークショップ・ セミナー

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	50	%
社会貢献		%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	1	人			
うち	社会人院生		人	留学生	人
博士後期課程		人			
うち	社会人院生		人	留学生	人
研究生		人			
学部生	83	人			
学位申請者		人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
旧大阪外国語大学学生生活室学生相談部門	学生部門員	2005年10月	2007年9月
旧大阪外国語大学大学院言語社会研究科前期学務委員会	委員	2004年4月	2007年9月
人間科学研究科学生支援委員会	委員	2007年10月	

担当授業科目
インドネシア語5(学部)
インドネシア語10(学部)
インドネシア文化講義Ⅰa(学部)
インドネシア文化講義Ⅰb(学部)
インドネシア文化講義Ⅱa(学部)
インドネシア文化講義Ⅱb(学部)
インドネシア文化特殊講義Ⅲa(学部)
インドネシア文化特殊講義Ⅲb(学部)
インドネシア現代社会研究 a(大学院)
インドネシア現代社会研究 b(大学院)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
事典	東南アジアを知る事典	福岡 まどか (共編、項目執筆: 担当項目6項目)	2008年3月 刊行予定	平凡社

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	50	%
社会貢献	15	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	2	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
博士後期課程	3	人			
うち	社会人院生	0	人	留学生	0
研究生	1	人			
学部生	11	人			
学位申請者	1	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	日本動物心理学会	学会誌「動物心理学研究」編集委員	2004.1	
学会	日本霊長類学会	評議員	1999.6	
学会	日本霊長類学会	理事	2007.6	
学会	日本霊長類学会	学会誌「霊長類研究」副編集長	2007.6	
学会	Primates(国際学術誌)	Associate Editor(編集委員)	1999.1	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
動物実験委員会		1996.8	

担当授業科目
行動生態学実験実習 II
行動生態学実験実習 III
比較行動発達学
比較心理学
霊長類行動学演習
比較行動発達学演習
比較発達心理学特定演習I
比較発達心理学特定演習II
比較発達心理学特定研究I
比較発達心理学特定研究II
比較発達心理学特別演習I
比較発達心理学特別演習II
比較発達心理学特別研究I

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(単著)	『ゴリラの子育て日記』	中道正之	2007	昭和堂
著書 (分担執筆)	『実践的研究のすすめ 人間科学のリアリティ』小泉潤二・志水宏吉(編)	中道正之	2007	有斐閣
学術論文	Long-term grooming partnerships between unrelated adult females in a free-ranging group of Japanese monkeys ( <i>Macaca fuscata</i> ).	<u>Nakamichi, M.</u> & K. Yamada	2007	<i>American Journal of Primatology</i>
学術論文	Assessing the effects of new primate exhibits on zoo visitors' attitudes and perception using three different assessment methods.	<u>Nakamichi, M.</u>	2007	<i>Anthrozoos</i>
学術論文	Spontaneously occurring mother-infant swapping and the relationships of the infants with their biological and foster mothers in a captive group of lowland gorillas ( <i>Gorilla gorilla gorilla</i> ).	<u>Nakamichi, M.</u> , A. Silldorff, C. Bingham, & P. Sexton	2007	<i>Infant Behavior and Development</i>
学術論文	Do female ring-tailed lemurs exhibit skewed birth sex ratio according social and environmental situations? : A preliminary analysis on a wild population.	Takahata, Y., N. Koyama, S. Ichiro, N. Miyamoto, & <u>M. Nakamichi.</u>	in press	<i>Primates</i>
学術論文	Monkeys with disabilities: Prevalence, severity and survival of <i>Macaca fuscata</i> with limb malformations on Awaji Island.	Turner, S. E., L. M. Fedigan, H. Nobuhara, T. Nobuhara, Matthews, H. D., <u>M. Nakamichi.</u>	in press	<i>Primates</i>
その他	Long-term grooming partnerships between unrelated adult females in a free-ranging group of Japanese monkeys ( <i>Macaca fuscata</i> ).	<u>Nakamichi, M.</u> & Yamada, K.	2007	Annual Report of Osaka University: Academic Achievement 2006-2007
その他	サルの中にヒトを見る	中道正之	2008	阪大ニューズレター

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	40	%
教育	40	%
社会貢献	10	%
学内運営	10	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学外運営	箕面山ニホンザル保護管理委員会	委員	2006.6	2008.6

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
行動生態学実験実習Ⅰ
行動生態学実験実習Ⅱ
行動生態学実験実習Ⅲ

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文 等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
会議報告	保育園児のいざこざへの介入行動	安田純・日野林俊彦・ 南徹弘	2008.3	日本発達心理学会 第19回大会論文集
会議報告	Not infants' reaching gesture, but infants' pointing gesture, provoke adult to comment.	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	2007.8	The 13th European Conference on Developmental Psychology
会議報告	幼児はどのように他児の視線を誘導 するか	岸本健・志澤康弘・安 田純・日野林俊彦・南 徹弘	2007.9	日本心理学会第71 回大会発表論文集
学術論文	Do the pointing gestures of infants provoke comments from adults?	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	2007.12	Infant Behavior and Development, 30, 562-567
会議報告	養育者はどのように幼児の指さしに 応答するか	岸本健・志澤康弘・安 田純・日野林俊彦・南 徹弘	2008.3	日本発達心理学会 第19回大会論文集
学術論文	Gaze following among toddlers.	Kishimoto, T., Shizawa, Y., Yasuda, J., Hinobayashi, T., & Minami, T.	2008	Infant Behavior and Development (in press)
会議報告	自由遊び場面における1-3歳児の 身体接触行動	山川咲子・安田純・日 野林俊彦・南徹弘	2007.9	日本心理学会第71 回大会発表論文集
会議報告	幼児期における身体接触をともなう遊 びの発達	山川咲子・安田純・日 野林俊彦・南徹弘	2008.3	日本発達心理学会 第19回大会論文集
会議報告	2-4 歳齢保育園児の泣き行動と仲間 関係	加藤真由子・安田純・ 日野林俊彦・南徹弘	2007.9	日本心理学会第71 回大会発表論文集
会議報告	自由遊び場面における2歳齢保育園 児の泣き行動	加藤真由子・安田純・ 日野林俊彦・南徹弘	2008.3	日本発達心理学会 第19回大会論文集

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	30	%
社会貢献	5	%
学内運営	35	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人	短期留学生	3人
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
学会	Anthropology of Japan in Japan (AJJ)	理事	2007.4	
研究フォーラム	(財団法人)アジア女性交流・研究フォーラム	研究雑誌 Journal of Asian Women's Studies の編集委員	2007.4	
倫理委員会	School of East Asian Studies, University of Sheffield, UK	倫理委員会の委員	2005.4	

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
グローバルコラボレーションセンター	兼任教員	2007.4	
留学生センター	兼任教員	2006.4	
(留学生)フロント・スタッフ・ネットワーク	委員	2006.4	
人間科学研究における国際交流委員会	国際交流担当として	2006.1	
英語表記(WG)委員会	委員	2006.4	

担当授業科目	
国際交流科目	Japan In and Out – Introduction to Contemporary Japanese Culture and Society
	ジェンダー論
	ジェンダー論特講義
国際交流科目	Gender Studies in Theory and Practice
	人間科学フィールド実習

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
研究報告書	「イギリスにおける10代若者への支援10代妊娠・出産を中心に」 in 「親力の形成と子育てに関わる技能の伝達に関する比較文化的研究ー若い親への子育て支援プログラム構築の基礎的検討ー」	山本 ベバリー・ ア ン (Beverley Anne Yamamoto)	2008. 3	九州看護福祉大学内 「若い親への子育て 支援」 研究班
研究雑誌	‘Taking the Male Lead: A Profile of Hanabusa Seiho’s Life in Japanese Dance’	Beverley Anne Yamamoto	2007.12	<i>Journal of Asian Women’s Studies</i> , Vol. 14
教科書	「センシティブな課題を研究するときの注意ー若者の性的な意識と行動をめぐるインタビュー調査の経験から」 in 『実践的研究のすすめ：人間科学のリアリティー』	山本 ベバリー・ ア ン (Beverley Anne Yamamoto)	2007.6	有斐閣
訳者解説	訳者解説」(第2部「女性と健康」、第3部「女性・行動主義・社会変革」)の計8章の訳者解説 in 『女性の人権とジェンダー』	山本 ベバリー・ ア ン (Beverley Anne Yamamoto)、第3 部のみ力武由美 と共著	2007.12	明石書店
翻訳(英和)	第2部「女性と健康」(「女性の健康と人権」、「女児の権利」、「若者移住者の適応反応に見る心理的・文化的要因ージェンダー化された反応から」) in 『女性の人権とジェンダー』	編集者: Marjorie Agosin 訳者: 山本 ベバ リー・ア ン (Beverley Anne Yamamoto)	2007.12	明石書店
翻訳(和英)	Care Providers in the Long-term Care Insurance System: The Potential of and Challenges Faced by Social Enterprises.	著者: 斉藤弥生 訳者: Beverley Anne Yamamoto and Andrea Stitzel	2008.1	Norwegian University of Science and Technology の研究会 で発表した研究論文
書評	<i>Sexualities and Society: A Reader</i> (仮邦題『選集セクシュアリティと社会』) edited by Jeffrey Weeks, Janet Holland and Matthew Waites in	Beverley Anne Yamamoto	2007.4	<i>Cutting-Edge</i> 「カテイ ング・エッジ」, No. 26
書評	<i>Gender Policies in Japan and the United States: Comparing Women’s Movements, Rights and Politics</i> (仮邦訳『日本とアメリカのジェンダー平等政策比較研究ー女性運動・権利・政治』) by Joyce Gelb	Beverley Anne Yamamoto	2007.6	<i>Cutting-Edge</i> 「カテイ ング・エッジ」, No. 27

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	10	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	40	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
	平成19年度「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」	ペーパーレフェリー	2007.6.19	2008.3.31

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月
学生支援室	副室長	2005.9	

担当授業科目
インターンシップ実習 A
インターンシップ A
道徳教育論(教職科目)
人間理解の基礎(全学共通教育科目 基礎セミナー)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名／論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
著書(共著)	『哲学の歴史 第11巻』／「後期ウイゲンシュタイン」	丸田 健	2007.4	中央公論出版社
著書(共著)	『レトリック論を学ぶ人のために』／「レトリックの存在理由」	丸田 健	2007.6	世界思想社
口頭発表	「レトリックの存在理由」を読む	丸田 健	2007.5	現在思想の会
翻訳	『政治哲学』第7号／H.マイアー「ルソーの(夢想)について」	丸田 健(訳)	2008.3	政治哲学研究会
著書(共著)	『現代哲学の基礎概念』	丸田 健	2008.3	大阪大学出版会
講演報告	科研費報告書『レオ・シュトラウスの哲学とシュトラウス学派政治思想の研究』 (研究代表者:石崎嘉彦撰南大学教授) ／Prof. Meier講演報告	丸田 健	2008.3	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	55	%
教育	5	%
社会貢献	20	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員				
委員会		役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目				

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行年月	発行元
著書(編著)	『アフリカの人間開発——実践と文化人類学』	松園万亀雄・縄田浩志・石田慎一郎(編著)	2008年3月	明石書店
著書(編著)	<i>The Indigenous Knowledge of the Ameru of Kenya</i>	Njuguna Gichere and Shin-ichiro Ishida (eds.)	2008年3月	Meru Museum (National Museums of Kenya)
著書(分担執筆)	<i>Conflict Management and Legal Pluralism: Studies in Local Societies of South-East Asia and East Africa</i>	Masaru Miyamoto (ed.), Shin-ichiro Ishida et al.	2008年3月	Chuo University
論文(単著)	ケニアの民間開発	石田慎一郎	2008年1月	『季刊民族学』123号
論文(単著)	ADR とメノナイト——アジア・アフリカにおける多元的法体制の新しい展開	石田慎一郎	2007年10月	『法律時報』79(12)
その他(単著)	白化粧の新成人(特集「化粧」)	石田慎一郎	2007年7月	『月刊みんぱく』31(7)

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？  
全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	25	%
教育	30	%
社会貢献	25	%
学内運営	20	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に答えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____ 人	留学生	_____ 人
研究生			_____ 人		
学部生			_____ 人		
学位申請者			_____ 人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月
特定非営利活動法人	地域文化に関する情報とプロジェクト		2006.3	

学内委員				
委員会	役職名	就任年月	退任年月	

担当授業科目				

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を 100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	80	%
教育	0	%
社会貢献	15	%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	0	人			
うち	社会人院生			人	留学生
博士後期課程	0	人			
うち	社会人院生			人	留学生
研究生	0	人			
学部生	0	人			
学位申請者	0	人			

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	30	%
教育	10	%
社会貢献	0	%
学内運営	60	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	職業による所得構造の変化—競争的セクターにおける中間層の所得劣化—	長松奈美江	2008.3	2005年SSM調査研究会
報告書	長時間労働と仕事における自律性—「強いられたもの」としての長時間労働—	長松奈美江	2008.3	2005年SSM調査研究会

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	5	%
教育	5	%
社会貢献		%
学内運営	90	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
学術論文	打楽器を用いた 2 者間相互作用における感性情報の研究	河瀬諭・中村敏枝	2008.3	大阪大学大学院人間科学研究科紀要

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	65	%
教育	30	%
社会貢献		%
学内運営	5	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元
報告書	職業経歴データの基礎分析	吉田崇	2008.3	
報告書	世代間所得移動から見た機会の不平等	吉田崇	2008.3	
報告書	所得達成に対する若年期キャリアの効果	吉田崇	2008.3	

【2】学期中のあなたの勤務時間は、どのように使われていますか？

全体を100%とした時の、以下の項目についての内訳を記入してください。

研究	20	%
教育	30	%
社会貢献	20	%
学内運営	30	%

【3】あなたの指導する大学院生等について、以下の質問に教えてください。

<人数>

博士前期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
博士後期課程	うち	社会人院生	_____人	留学生	_____人
研究生			_____人		
学部生			_____人		
学位申請者			_____人		

【4】2007(平成19)年度 活動

社会活動				
分類	機関名・企業名	役職名	就任年月	退任年月

学内委員			
委員会	役職名	就任年月	退任年月

担当授業科目
留学生センター選択科目「JBT200総合日本語」(水1)、「JCT310/410 専門会話」(水2)

【5】2007(平成19)年度 著書・論文

分類(著書・ 学術論文等)	書名/論文タイトル	著者名	発行 年月	発行元